



Cisco NX-OS Fundamentals コマンド

この章では、Cisco NX-OS Fundamentals コマンドについて説明します。

banner motd

ユーザがデバイスにログインしたときに表示される Message-of-The-Day (MoTD) バナーを設定するには、**banner motd** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
banner motd delimiting-character message delimiting-character
```

```
no banner motd
```

シンタックスの説明

<i>delimiting-character</i>	デリミタを指定。この文字は、メッセージの最初と最後を示すものであり、メッセージ内では使用しないでください。デリミタとして " および % は使用しないでください。
<i>message</i>	メッセージテキスト。テキストは英数字で入力し、大文字と小文字が区別され、特殊文字を含めることができます。デリミタとして選択した文字は含めないでください。テキストは 80 文字以内で、40 行以内で指定します。

デフォルト

User Access Verification

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

複数行の MoTD バナーを作成する場合は、デリミタを入力する前に Enter を押して改行します。40 行以内でテキストを入力できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例

次に、1 行の MoTD バナーを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# banner motd #Unauthorized access to this device is prohibited!#
```

次に、複数行の MoTD バナーを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# banner motd #Welcome to authorized users!
> Unauthorized access prohibited.#
```

次に、MoTD バナーをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no banner motd
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show banner motd</code>	MoTD バナーが表示されます。

boot auto-copy

スタンバイ スーパーバイザ モジュールへのブート イメージ ファイルの自動コピーをイネーブルにするには、**boot auto-copy** コマンドを使用します。自動コピーをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

boot auto-copy

no boot auto-copy

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト イネーブル

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン イメージ ファイルの自動コピーがイネーブルになっている場合、Cisco NX-OS ソフトウェアにより、ブート変数で参照されるイメージ ファイルがスタンバイ スーパーバイザ モジュールにコピーされます。これらのイメージ ファイルは、アクティブ スーパーバイザ モジュール上のローカル メモリに存在する必要があります。キックスタート ブート変数およびシステム ブート変数の場合、スタンバイ スーパーバイザ モジュールに設定されているイメージ ファイルのみがコピーされます。モジュール イメージの場合、スタンバイの対応する場所 (bootflash: または slot0:) に存在するすべてのモジュールがコピーされます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、スタンバイ スーパーバイザ モジュールへのブート イメージ ファイルの自動コピーをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot auto-copy
Auto-copy administratively enabled
```

関連コマンド	コマンド	説明
	boot kickstart	キックスタート ブート変数が設定されます。
	boot system	システム ブート変数が設定されます。
	copy	ファイルがコピーされます。
	show boot	ブート変数の設定情報が表示されます。

boot kickstart

Cisco NX-OS ソフトウェアのキックスタート イメージ用のブート変数を設定するには、**boot kickstart** コマンドを使用します。キックスタート イメージのブート変数を消去するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
boot kickstart [filesystem:[//directory] | directory]filename [sup-1] [sup-2]
no boot kickstart
```

シンタックスの説明	
<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash または slot0 です。
<i>//directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	キックスタート イメージ ファイルの名前。大文字と小文字が区別されます。
sup-1	(任意) キックスタート ブートが、sup-1 スーパーバイザ モジュール用にのみ設定されます。
sup-2	(任意) キックスタート ブートが、sup-2 スーパーバイザ モジュール用にのみ設定されます。

デフォルト 変数は、両方のスーパーバイザ モジュール用に設定されます。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザ ロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン Cisco NX-OS ソフトウェアでは、ブート時にイメージをロードするためにブート変数を使用します。リロードの前に、キックスタート イメージをデバイスにコピーする必要があります。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、キックスタート ブート変数を両方のスーパーバイザ モジュール用に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot kickstart bootflash:kickstart-image
```

次に、キックスタート ブート変数を sup-1 スーパーバイザ モジュール用に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot kickstart bootflash:kickstart-image sup-1
```

次に、キックスタート ブート変数を消去する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no boot kickstart
```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy	ファイルがコピーされます。
	show boot	ブート変数の設定情報が表示されます。

boot system

Cisco NX-OS ソフトウェアのシステム イメージ用のブート変数を設定するには、**boot system** コマンドを使用します。システム イメージのブート変数を消去するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
boot system [filesystem:[//directory] | directory]filename [sup-1] [sup-2]
```

```
no boot system
```

シンタックスの説明	
<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash または slot0 です。
<i>//directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	システム イメージ ファイルの名前。大文字と小文字が区別されます。
sup-1	(任意) システム ブートが、sup-1 スーパーバイザ モジュール用にのみ設定されます。
sup-2	(任意) システム ブートが、sup-2 スーパーバイザ モジュール用にのみ設定されます。

デフォルト 変数は、両方のスーパーバイザ モジュール用に設定されます。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザ ロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン Cisco NX-OS ソフトウェアでは、ブート時にイメージをロードするためにブート変数を使用します。リロードの前に、システム イメージをデバイスにコピーする必要があります。
このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、システム ブート変数を両方のスーパーバイザ モジュール用に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot system bootflash:system-image
```

次に、システム ブート変数を sup-1 スーパーバイザ モジュール用に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot system bootflash:system-image sup-1
```

次に、システム ブート変数を消去する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no boot system
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show boot	ブート変数の設定情報が表示されます。

cd

デバイス ファイル システムの現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。

```
cd [filesystem:[//directory] | directory]
```

シンタックスの説明	
<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash 、 slot0 、 volatile 、 usb1 、または usb2 です。
<i>//directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。大文字と小文字が区別されます。

デフォルト **bootflash**

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザ ロール ネットワーク 管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 現在の作業ディレクトリを確認するには、**pwd** コマンドを使用します。
アクティブ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリのみを変更できます。
このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、現在のファイル システム上の現在の作業ディレクトリを変更する例を示します。

```
switch# cd my-scripts
```

次に、現在の作業ディレクトリを別のファイル システムに変更する例を示します。

```
switch# cd slot0:
```

次に、作業ディレクトリをデフォルトの設定 (**bootflash**) に戻す例を示します。

```
switch# cd
```

関連コマンド	コマンド	説明
	pwd	現在の作業ディレクトリの名前が表示されます。

clear cli history

コマンド履歴を消去するには、**clear cli history** コマンドを使用します。

clear cli history

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン CLI（コマンドライン インターフェイス）で入力したコマンドの履歴を表示するには、**show cli history** コマンドを使用します。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、コマンド履歴を消去する例を示します。

```
switch# clear cli history
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show cli history	コマンド履歴が表示されます。

clear debug-logfile

デバッグ ログファイルの内容を消去するには、**clear debug-logfile** コマンドを使用します。

```
clear debug-logfile filename
```

シンタックスの説明	<i>filename</i>	消去するデバッグ ログファイルの名前
デフォルト	なし	
コマンドモード	任意のコマンドモード	
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	このコマンドにはライセンスは不要です。	
例	次に、デバッグ ログファイルを消去する例を示します。 switch# clear debug-logfile syslogd_debugs	
関連コマンド	コマンド	説明
	debug logfile	デバッグをロギングするファイルが設定されます。
	debug logging	デバッグのロギングがイネーブルになります。
	show debug logfile	デバッグ ログファイルの内容が表示されます。

clear install failure-reason

ソフトウェアのインストールが失敗した理由を消去するには、**clear install failure-reason** コマンドを使用します。

clear install failure-reason

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、ソフトウェアのインストールが失敗した理由を消去する例を示します。

```
switch# clear install failure-reason
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show install all	ソフトウェアのインストールに関するステータス情報が表示されます。

clear license

ライセンスをアンインストールするには、**clear license** コマンドを使用します。

clear license *filename*

シンタックスの説明	<i>filename</i>	アンインストールするライセンス ファイルの名前
------------------	-----------------	-------------------------

デフォルト	なし
--------------	----

コマンドモード	任意のコマンドモード
----------------	------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者
----------------------	-----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドにはライセンスは不要です。
-------------------	---------------------

例	次に、特定のライセンスを消去する例を示します。
----------	-------------------------

```
switch# clear license Enterprise.lic
Clearing license Enterprise.lic:
SERVER this_host ANY
VENDOR cisco

Do you want to continue? (y/n) y
Clearing license ..done
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show license	ライセンス情報が表示されます。

cli alias name

コマンドエイリアスを設定するには、**cli alias name** コマンドを使用します。コマンドエイリアスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cli alias name *alias-name alias-text*

no cli alias name

シンタックスの説明	alias-name	alias-text
	コマンドエイリアスの名前。エイリアス名は英数字で表します。大文字と小文字は区別されません。先頭は英字にする必要があります、30文字以内で指定します。	エイリアスのテキストストリング。このコマンドは、英数字で指定します。大文字と小文字は区別されず、スペースと特殊文字を含めることができ、100文字以内で指定します。

デフォルト なし

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、使用頻度の高いコマンドのエイリアスを作成できます。

Cisco NX-OS ソフトウェアには、**alias** という定義済みのコマンドエイリアスが1つあります。このコマンドを使用すると、現在設定されているコマンドエイリアスを表示できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、コマンドエイリアスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cli alias name crun copy running-config startup-config
```

次に、コマンドエイリアスを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no cli alias name crun
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show cli alias	コマンドエイリアスの設定に関する情報が表示されます。

cli var name

ターミナルセッションの CLI (コマンドライン インターフェイス) 変数を定義するには、**cli var name** コマンドを使用します。CLI 変数を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
cli var name variable-name variable-text
```

```
cli no var name variable-name
```

シンタックスの説明	変数の名前。名前は、31 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。
<i>variable-name</i>	
<i>variable-text</i>	変数のテキスト。テキストは、200 文字以内の英数字で指定します。スペースを含めることができます。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン CLI 変数は、次のシンタックスを使用して参照できます。

\$(変数名)

変数を使用できるインスタンスは、次のとおりです。

- コマンド スクリプト
- ファイル名

変数は、別の変数の定義内では参照できません。

Cisco NX-OS ソフトウェアでは、TIMESTAMP という変数が定義済みであり、この変数を使用して日付を挿入できます。TIMESTAMP CLI 変数は、変更または削除することはできません。

CLI 変数の定義を変更するには、その変数を事前に削除する必要があります。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、CLI 変数を定義する例を示します。

```
switch# cli var name testinterface interface 2/3
```

次に、CLI 変数を参照する例を示します。

```
switch# cd slot0:
```

次に、TIMESTAMP 変数を参照する例を示します。

```
switch# copy running-config > bootflash:run-config-$(TIMESTAMP).cnfg
```

次に、CLI 変数を削除する例を示します。

```
switch# cli no var name testinterface interface 2/3
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show cli variables</code>	CLI 変数が表示されます。

clock set

NX-OS デバイスのクロックを手動で設定するには、**clock set** コマンドを使用します。

clock set *time day month year*

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<i>time</i>	時刻。フォーマットは、 <i>HH:MM:SS</i> です。
	<i>day</i>	日。範囲は 1 ~ 31 です。
	<i>month</i>	月。値は、 January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November 、および December です。
	<i>year</i>	年。範囲は 2000 ~ 2030 です。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、使用しているデバイスを、NTP などの外部クロック ソースと同期できない場合に使用します。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、クロックを手動で設定する例を示します。

```
switch# clock set 9:00:00 1 June 2008
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show clock	クロック時刻が表示されます。

clock summer-time

サマータイム（夏時間）のオフセットを設定するには、**clock summer-time** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
clock summer-time zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month
end-time offset-minutes
```

```
no clock summer-time
```

シンタックスの説明	zone-name	時間帯のストリング。3文字のストリングです。
	start-week	サマータイムのオフセットを月の何週目に開始するかを示す値。範囲は 1 ~ 5 です。
	start-day	サマータイムのオフセットを開始する曜日。有効な値は、 Monday 、 Tuesday 、 Wednesday 、 Thursday 、 Friday 、 Saturday 、または Sunday です。
	start-month	サマータイムのオフセットを開始する月。有効な値は、 January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November 、および December です。
	start-time	サマータイムのオフセットを開始する時刻。フォーマットは、 <i>hh:mm</i> です。
	end-week	サマータイムのオフセットを月の何週目に終了するかを示す値。範囲は 1 ~ 5 です。
	end-day	サマータイムのオフセットを終了する曜日。有効な値は、 Monday 、 Tuesday 、 Wednesday 、 Thursday 、 Friday 、 Saturday 、または Sunday です。
	end-month	サマータイムのオフセットを終了する月。有効な値は、 January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November 、および December です。
	end-time	サマータイムのオフセットを終了する時刻。フォーマットは、 <i>hh:mm</i> です。
	offset-minutes	時刻を何分オフセットするかを示す値。範囲は 1 ~ 1440 です。

デフォルト なし

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、サマータイム（夏時間）のオフセットを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# clock summer-time PDT 1 Sunday March 02:00 1 Sunday November 02:00 60
```

次に、サマータイムのオフセットを解除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no clock summer-time
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	サマータイムのオフセットの設定が表示されます。

clock timezone

Coordinated Universal Time (UTC; 世界標準時)の時間帯のオフセットを設定するには、**clock timezone** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock timezone *zone-name* *offset-hours* *offset-minutes*

no clock timezone

シンタックスの説明	zone-name	時間帯の名前。名前は、時間帯を表す略語 3 文字のストリングです (たとえば、PST や EST)。
	offset-hours	UTC から何時間オフセットするかを示す値。範囲は -23 ~ 23 です。
	offset-minutes	UTC から何分オフセットするかを示す値。範囲は 0 ~ 59 です。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デバイスのクロックを UTC からオフセットする場合に使用します。
このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、UTC の時間帯のオフセットを設定する例を示します。

```
switch# clock timezone EST 5 0
```

次に、時間帯のオフセットを解除する例を示します。

```
switch# no clock timezone
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show clock	クロック時刻が表示されます。

configure terminal

グローバル コンフィギュレーション モードを開始するには、**configure terminal** コマンドを使用します。

configure terminal

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、グローバル コンフィギュレーション モードを開始する場合に使用します。このモードで入力するコマンドは、Enter キーを押したあとに、実行コンフィギュレーション ファイルに書き込まれます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、グローバル コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	where	現在のコンフィギュレーション モードのコンテキストが表示されます。

copy

ファイルをコピー元からコピー先にコピーするには、**copy** コマンドを使用します。

copy source-url destination-url

シンタックスの説明

<i>source-url</i>	コピー元のファイルまたはディレクトリの場所の URL (または変数)。コピー元は、ファイルがダウンロードされるか、またはアップロードされるかに応じて、ローカルまたはリモートを指定できます。
<i>destination-url</i>	コピーしたファイルまたはディレクトリのコピー先の URL (または変数)。コピー先は、ファイルがダウンロードされるか、またはアップロードされるかに応じて、ローカルまたはリモートを指定できます。

コピー元およびコピー先の URL のフォーマットは、ファイルまたはディレクトリの場所によって異なります。Cisco NX-OS ファイル システムのシンタックス (*filesystem:[/directory][/filename]*) に準じたディレクトリまたはファイル名の CLI (コマンドライン インターフェイス) 変数を入力できます。

次の各表に、URL プレフィックスのキーワードをファイル システムのタイプ別に示します。URL プレフィックスのキーワードを指定しない場合、現在のディレクトリ内のファイルが検索されます。

表 1 には、書き込み可能なローカルストレージファイル システムの URL プレフィックスのキーワードを示します。表 2 には、リモートファイル システムの URL プレフィックスのキーワードを示します。表 3 には、書き込み不能なファイル システムの URL プレフィックスのキーワードを示します。

表 1 書き込み可能なローカルストレージファイル システムの URL プレフィックスのキーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
<i>bootflash:[/module/]</i>	ブート フラッシュ メモリのコピー元またはコピー先の URL。 <i>module</i> 引数の値は、 sup-active 、 sup-local 、 sup-remote 、または sup-standby です。
<i>slot0:[/module/]</i>	外部 PCMCIA フラッシュ メモリ デバイスのコピー元またはコピー先の URL。 <i>module</i> 引数の値は、 sup-active 、 sup-local 、 sup-remote 、または sup-standby です。
<i>usb0:[/module/]</i> <i>usb1:[/module/]</i>	外部 USB フラッシュ メモリ デバイスのコピー元またはコピー先の URL。 <i>module</i> 引数の値は、 sup-active 、 sup-local 、 sup-remote 、または sup-standby です。

表 2 リモートファイル システムの URL プレフィックスのキーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
<i>ftp:</i>	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスのシンタックスは次のとおりです。 <i>ftp:[/server][/path]/filename</i>
<i>scp:</i>	SSH をサポートし、SCP を使用してファイルのコピーを受け取るネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスのシンタックスは次のとおりです。 <i>scp:[/username@]server[/path]/filename</i>

表 2 リモート ファイル システムの URL プレフィックスのキーワード (続き)

キーワード	コピー元またはコピー先
sftp:	SFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスのシンタックスは次のとおりです。 <i>sftp:[//[username@]server][[/path]/filename]</i>
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスのシンタックスは次のとおりです。 <i>tftp:[//server[:port]][[/path]/filename]</i>

表 3 特殊なファイル システムの URL プレフィックスのキーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
core:	コア ファイルのローカル メモリ。コア ファイルを core: ファイル システムからコピーできます。
debug:	デバッグ ファイルのローカル メモリ。デバッグ ファイルを debug: ファイル システムからコピーできます。
log:	ログファイルのローカル メモリ。ログファイルを log: ファイル システムからコピーできます。
logflash:	ログファイルの外部メモリ。ログファイルを logflash: ファイル システムからコピーできます。
nvrn:	ローカルの NVRAM。スタートアップ コンフィギュレーションを nvrn: ファイル システムとの間でコピーできます。nvrn: ファイル システムは、startup-config ファイルをコマンドで参照する場合のオプションのシステムです。
system:	ローカルのシステム メモリ。実行コンフィギュレーションを system: ファイル システムとの間でコピーできます。system: ファイル システムは、running-config ファイルをコマンドで参照する場合、任意となります。
volatile:	ローカルの揮発性メモリ。ファイルを volatile: ファイル システムとの間でコピーできます。volatile: メモリ内のすべてのファイルは、物理デバイスのリロード時に失われます。

デフォルト

コピー先ファイルのデフォルト名は、コピー元ファイル名です。

コマンド モード

任意のコマンド モード

サポートされるユーザ ロール

ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

copy コマンドを使用すると、ファイル（たとえば、システム イメージやコンフィギュレーション ファイル）をある場所から別の場所にコピーできます。ファイルのコピー元およびコピー先は、Cisco NX-OS ファイル システムの URL を使用して指定し、ローカルまたはリモートのファイルの場所を指定できます。使用するファイル システム（たとえば、ローカル メモリ ソースやリモート サーバ）によって、コマンドで使用するシンタックスが決まります。

コマンドラインでは、必要なすべての情報（コピー元およびコピー先の URL と、使用するユーザ名）を入力するか、**copy** コマンドを入力して、不足している情報を CLI にプロンプトで表示させます。

コピー プロセス全体の完了には、ネットワークの条件およびファイルのサイズに応じて数分かかる場合があります、プロトコルおよびネットワークによって異なります。

ファイル システムの URL プレフィックスのキーワード（たとえば、**bootflash**）のあとには、コロン（:）が必要です。

ftp:、**scp:**、**sftp:**、および **tftp:** の URL シンタックスでは、サーバは IPv4 アドレスまたはホスト名になります。

このコマンドにはライセンスは不要です。

このセクションの以下のトピックでは、使用上のガイドラインについて説明します。

- [サーバからブートフラッシュ メモリへのファイルのコピー \(p.21\)](#)
- [サーバから実行コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー \(p.21\)](#)
- [サーバからスタートアップ コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー \(p.22\)](#)
- [サーバ上の実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションのコピー \(p.22\)](#)

サーバからブートフラッシュ メモリへのファイルのコピー

イメージをサーバからローカル ブートフラッシュ メモリにコピーするには、**copy source-url bootflash:** コマンド（たとえば、**copy tftp:source-url bootflash:**）を使用します。

サーバから実行コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

コンフィギュレーション ファイルをネットワーク サーバからデバイスの実行コンフィギュレーションにダウンロードするには、**copy {ftp:|scp:|sftp:|tftp:}source-url running-config** コマンドを使用します。コンフィギュレーションは、コマンドを CLI に入力したかのように、実行コンフィギュレーションに追加されます。その結果、コンフィギュレーション ファイルは、前の実行コンフィギュレーションと、ダウンロードしたコンフィギュレーション ファイルを組み合わせたファイルになります。ダウンロードしたコンフィギュレーション ファイルは、前の実行コンフィギュレーションよりも優先されます。

ホストまたはネットワークのコンフィギュレーション ファイルをコピーできます。ある特定のネットワーク サーバに適用するコマンドが含まれたホスト コンフィギュレーション ファイルをコピーおよびロードするには、**host** のデフォルト値を受け入れます。ネットワーク上のすべてのネットワーク サーバに適用するコマンドが含まれたネットワーク コンフィギュレーション ファイルをコピーおよびロードするには、**network** と入力します。

サーバからスタートアップ コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

コンフィギュレーション ファイルをネットワーク サーバからルータのスタートアップ コンフィギュレーションにコピーするには、**copy {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}source-url startup-config** コマンドを使用します。これらのコマンドにより、スタートアップ コンフィギュレーション ファイルが、コピーしたコンフィギュレーション ファイルに置き換えられます。

サーバ上の実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションのコピー

FTP、SCP、SFTP、または TFTP を使用するネットワーク サーバに現在のコンフィギュレーション ファイルをコピーするには、**copy running-config {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}destination-url** コマンドを使用します。スタートアップ コンフィギュレーション ファイルをネットワーク サーバにコピーするには、**copy startup-config {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}destination-url** コマンドを使用します。

コピーしたコンフィギュレーション ファイルは、バックアップとして使用できます。

例

次に、ファイルを同じディレクトリ内でコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 file2
```

次に、ファイルを別のディレクトリにコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 my_files:file2
```

次に、ファイルを別のファイル システムにコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 slot0:
```

次に、ファイルを別のスーパーバイザ モジュールにコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 bootflash://sup-remote/file1.bak
```

次に、ファイルをリモート サーバからコピーする例を示します。

```
switch# copy scp://10.10.1.1/image-file.bin bootflash:image-file.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリが変更されます。
cli var name	セッションの CLI 変数が設定されます。
dir	ディレクトリの内容が表示されます。
move	ファイルが移動されます。
pwd	現在の作業ディレクトリの名前が表示されます。

copy running-config startup-config

実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーするには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

copy running-config startup-config

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、実行コンフィギュレーション内の設定の変更を、持続性メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーションに保存するために使用します。デバイスのリロードまたは切り替えが発生すると、保存済みの設定が適用されます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存する例を示します。

```
switch# copy running-config startup-config
[#####] 100%
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show running-config	実行コンフィギュレーションが表示されます。
	show running-config diff	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異が表示されます。
	show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションが表示されます。
	write erase	持続性メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーションが消去されます。

databits

COM1 ポートまたはコンソール ポートの文字のデータ ビット数を設定するには、**databits** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

databits bits

no databits bits

シンタックスの説明	<i>bits</i>	文字のデータ ビット数。範囲は 5 ~ 8 です。
------------------	-------------	---------------------------

デフォルト	8 ビット
--------------	-------

コマンド モード	COM1 ポート コンフィギュレーション コンソール ポート コンフィギュレーション
-----------------	---

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

コンソール ポートおよび COM1 ポートは、コンソール ポート上のセッションからのみ設定できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、COM1 ポートのデータ ビット数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# databits 7
```

次に、コンソール ポートのデータ ビット数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# databits 7
```

次に、COM1 ポートのデータ ビット数をデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# no databits 7
```


次に、コンソール ポートのデータ ビット数をデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no databits 7
```

関連コマンド

コマンド	説明
show line	COM1 ポートおよびコンソール ポートの設定に関する情報が表示されます。

debug logfile

指定のファイルに **debug** コマンドの結果を出力するには、**debug logfile** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug logfile filename [size bytes]
```

```
no debug logfile filename [size bytes]
```

シンタックスの説明	filename	debug コマンドの結果を出力するファイルの名前。ファイル名は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。
	size bytes	(任意) ログファイルのサイズをバイト数で指定します。範囲は 4096 ~ 10485760 です。

デフォルト	デフォルトのファイル名 : syslogd_debugs デフォルトのファイル サイズ : 10485760 バイト
-------	---

コマンド モード	任意のコマンド モード
----------	-------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
---------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	Cisco NX-OS ソフトウェアでは、ログファイルは log: ファイル システムのルート ディレクトリに作成されます。ログファイルを表示するには、 dir log: コマンドを使用します。 このコマンドにはライセンスは不要です。
------------	--

例	次に、デバッグ ログファイルを指定する例を示します。 switch# debug logfile debug_log
---	--

次に、デバッグ ログファイルをデフォルトの設定に戻す例を示します。

switch# **no debug logfile debug_log**

関連コマンド	コマンド	説明
	dir	ディレクトリの内容が表示されます。
	show debug	デバッグ設定が表示されます。
	show debug logfile	デバッグ ログファイルの内容が表示されます。

debug logging

debug コマンドの出力のロギングをイネーブルにするには、**debug logging** コマンドを使用します。デバッグのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug logging

no debug logging

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、**debug** コマンドの出力のロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# debug logging
```

次に、**debug** コマンドの出力のロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# no debug logging
```

関連コマンド	コマンド	説明
	debug logfile	debug コマンドの出力先のログファイルが設定されます。

delete

ファイルを削除するには、**delete** コマンドを使用します。

```
delete [filesystem:[//directory/] | directory/]filename
```

シンタックスの説明	
<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash 、 slot0 、 usb1 、 usb2 、または volatile です。
<i>//directory/</i>	(任意) ディレクトリの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	ファイルの名前。大文字と小文字が区別されます。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザ ロール ネットワーク 管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 削除するファイルを検索するには、**dir** コマンドを使用します。
このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、ファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete bootflash:old_config.cfg
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dir	ディレクトリの内容が表示されます。

dir

ディレクトリの内容を表示するには、**dir** コマンドを使用します。

```
dir [filesystem:[//directory/] | directory/]
```

シンタックスの説明	<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash 、 debug 、 log 、 logflash 、 slot0 、 usb1 、 usb2 、または volatile です。
	<i>//directory/</i>	(任意) ディレクトリの名前。大文字と小文字が区別されます。

デフォルト 現在の作業ディレクトリの内容が表示されます。

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 現在の作業ディレクトリを確認するには、**pwd** コマンドを使用します。
現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。
このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、bootflash 内のルート ディレクトリの内容を表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash:
```

次に、現在の作業ディレクトリの内容を表示する例を示します。

```
switch# dir
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリが変更されます。
	pwd	現在の作業ディレクトリの名前が表示されます。

echo

ターミナルセッションでテキスト スtringを表示するには、**echo** コマンドを使用します。

Cisco NX-OS Release 4.0(2) およびそれ以前のリリース

```
echo [-e] [text]
```

Cisco NX-OS Release 4.0(3) およびそれ以降のリリース

```
echo [backslash-interpret] [text]
```

シンタックスの説明

-e	(任意) バックスラッシュ文字 (\) のあとの任意の文字がフォーマットオプションとして解釈されます。
backslash-interpret	(任意) バックスラッシュ文字 (\) のあとの任意の文字がフォーマットオプションとして解釈されます。
<i>text</i>	(任意) 表示するテキスト スtring。テキスト スtringは、200 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、スペースを含めることができます。テキスト スtringには、CLI 変数への参照も含めることができます。

デフォルト

ブランク行が表示されます。

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。
4.0(3)	-e キーワードが backslash-interpret キーワードに変更されました。

使用上のガイドライン

このコマンドをコマンドスクリプトで使用すると、スクリプトの実行中に情報を表示できます。

表4に、**-e**または **backslash-interpret** キーワードを指定した場合にテキストに挿入できるフォーマット キーワードを示します。

表 4 echo コマンドのフォーマット オプション

フォーマット オプション	説明
\b	バック スペース
\c	テキスト スtringの最後にある改行文字が削除されます。
\f	フォーム フィード文字が挿入されます。
\n	改行文字が挿入されます。
\r	テキスト行の最初に戻ります。
\t	水平タブ文字が挿入されます。
\v	垂直タブ文字が挿入されます。

表 4 echo コマンドのフォーマット オプション (続き)

フォーマット オプション	説明
\\	バックslash文字が表示されます。
\nnn	対応する ASCII 8 進文字が表示されます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例

次に、コマンドプロンプトで空白行を表示する例を示します。

```
switch# echo
```

次に、コマンドプロンプトでテキスト行を表示する例を示します。

```
switch# echo Script run at $(TIMESTAMP).
Script run at 2008-08-12-23.29.24.
```

次に、テキストストリングでフォーマット オプションを使用する例を示します。

```
switch# echo backslash-interpret This is line #1. \nThis is line #2.
This is line #1.
This is line #2.
```

関連コマンド

コマンド	説明
run-script	コマンド スクリプトが実行されます。

end

コンフィギュレーション モードを終了して EXEC モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

```
end
```

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、グローバル コンフィギュレーション モードから EXEC モードに戻る例を示します。

```
switch(config)# end
switch#
```

次に、インターフェイス コンフィギュレーション モードから EXEC モードに戻る例を示します。

```
switch(config-if)# end
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	exit	前のコマンドモードに戻ります。

exec-timeout

コンソール ポートまたは仮想ターミナルで非アクティブ セッションのタイムアウトを設定するには、**exec-timeout** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

exec-timeout *minutes*

no exec-timeout

シンタックスの説明	<i>minutes</i>	分。範囲は 0 ~ 525600 です。0 分を設定すると、タイムアウトはディセーブルになります。
------------------	----------------	---

デフォルト	0 分
--------------	-----

コマンドモード	コンソール ポート コンフィギュレーション ライン コンフィギュレーション
----------------	--

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。
-------------------	---

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションからのみ設定できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例	次に、コンソール ポートに対して非アクティブ セッションのタイムアウトを設定する例を示します。
----------	---

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-com1)# exec-timeout 30
```

次に、仮想ターミナルに対して非アクティブ セッションのタイムアウトを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# exec-timeout 30
```

次に、コンソール ポートの非アクティブ セッションのタイムアウトをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-com1)# no exec-timeout
```

次に、仮想ターミナルの非アクティブセッションのタイムアウトをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# line vty  
switch(config-line)# no exec-timeout
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config	実行コンフィギュレーションが表示されます。

exit

コンフィギュレーション モードを終了して前のコンフィギュレーション モードに戻るには、**exit** コマンドを使用します。

exit

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、グローバル コンフィギュレーション モードから EXEC モードに戻る例を示します。

```
switch(config)# exit
switch#
```

次に、インターフェイス コンフィギュレーション モードからグローバル コンフィギュレーション モードに戻る例を示します。

```
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	end	EXEC コマンド モードに戻ります。

find

ある文字ストリングで始まるファイル名を検索するには、**find** コマンドを使用します。

find *filename-prefix*

シンタックスの説明	<i>filename-prefix</i>	ファイル名の最初の部分または全体。ファイル名プレフィクスでは、大文字と小文字が区別されます。
------------------	------------------------	--

デフォルト	なし
--------------	----

コマンドモード	任意のコマンドモード
----------------	------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	<p>find コマンドを使用すると、現在の作業ディレクトリに含まれるすべてのサブディレクトリが検索されます。cd および pwd コマンドを使用すると、開始ディレクトリにナビゲートできます。</p> <p>このコマンドにはライセンスは不要です。</p>
-------------------	--

例	次に、ospf で始まるファイル名を表示する例を示します。
----------	-------------------------------

```
switch# find ospf
/usr/bin/find: ./lost+found: Permission denied
./ospf-gr.cfg
./ospfgrconfig
./ospf-gr.conf
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリが変更されます。
	pwd	現在の作業ディレクトリの名前が表示されます。

flowcontrol hardware

COM1 ポートのフロー制御をイネーブルにするには、**flowcontrol** コマンドを使用します。フロー制御をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

flowcontrol hardware

no flowcontrol hardware

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト イネーブル

コマンド モード COM1 ポート コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

COM1 ポートは、コンソール ポートまたは COM1 ポート上のセッションからのみ設定できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、COM1 ポートのフロー制御をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# flowcontrol hardware
```

次に、COM1 ポートのフロー制御をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# no flowcontrol hardware
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show line	COM1 ポートおよびコンソール ポートの設定に関する情報が表示されます。

format

外部フラッシュ デバイスをフォーマットし、内容を消去して出荷時の状態に戻すには、**format** コマンドを使用します。

format *filesystem:*

シンタックスの説明	<i>filesystem:</i> ファイル システムの名前。有効な値は、 slot0 、 usb1 、または usb2 です。
------------------	--

デフォルト	なし
--------------	----

コマンド モード	任意のコマンド モード
-----------------	-------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。
-------------------	---



(注)	破損したブートフラッシュをフォーマットして回復する詳細については、『 <i>Cisco NX-OS Troubleshooting Guide, Release 4.0</i> 』を参照してください。
------------	--

このコマンドにはライセンスは不要です。

例	次に、外部フラッシュ デバイスをフォーマットする例を示します。
----------	---------------------------------

```
switch# format slot0:
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリが変更されます。
	dir	ディレクトリの内容が表示されます。
	pwd	現在の作業ディレクトリの名前が表示されます。

gunzip

圧縮ファイルを圧縮解除するには、**gunzip** コマンドを使用します。

gunzip *filename*

シンタックスの説明	<i>filename</i>	ファイルの名前。大文字と小文字が区別されます。
------------------	-----------------	-------------------------

デフォルト	なし
--------------	----

コマンドモード	任意のコマンドモード
----------------	------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	圧縮ファイル名の拡張子は .gz である必要があります。ファイル名の一部として .gz 拡張子を入力する必要はありません。
-------------------	---

Cisco NX-OS ソフトウェアでは、圧縮に Lempel-Ziv 1977 (LZ77) 符号化を使用します。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例	次に、圧縮ファイルを圧縮解除する例を示します。
----------	-------------------------

```
switch# gunzip run_cfg.cfg
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dir	ディレクトリの内容が表示されます。
	gzip	ファイルが圧縮されます。

gzip

ファイルを圧縮するには、**gzip** コマンドを使用します。

gzip filename

シンタックスの説明	<i>filename</i>	ファイルの名前。大文字と小文字が区別されます。
------------------	-----------------	-------------------------

デフォルト	なし
--------------	----

コマンドモード	任意のコマンドモード
----------------	------------

サポートされるユーザーロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
-----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドの使用後、ファイル名は、拡張子が <code>.gz</code> の圧縮ファイル名に置き換わります。 Cisco NX-OS ソフトウェアでは、圧縮に Lempel-Ziv 1977 (LZ77) 符号化を使用します。 このコマンドにはライセンスは不要です。
-------------------	--

例	次に、ファイルを圧縮する例を示します。 <code>switch# gzip run_cfg.cfg</code>
----------	--

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>dir</code>	ディレクトリの内容が表示されます。
	<code>gunzip</code>	圧縮ファイルが圧縮解除されます。

hostname

デバイスのホスト名を設定するには、**hostname** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

hostname name

no hostname

シンタックスの説明	<i>name</i>	デバイスの名前。名前は、32 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、特殊文字を含めることができます。
------------------	-------------	---

デフォルト switch

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン NX-OS ソフトウェアは、CLI (コマンドライン インターフェイス) のプロンプトおよびデフォルトのコンフィギュレーション ファイル名でホスト名を使用します。

hostname コマンドは、**switchname** コマンドと同じ機能を実行します。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、デバイスのホスト名を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hostname Engineering2
Engineering2(config)#
```

次に、デバイスのホスト名をデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
Engineering2# configure terminal
Engineering2(config)# no hostname
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	switchname	デバイスのホスト名が設定されます。
	show hostname	デバイスのホスト名が表示されます。

install all

NX-OS デバイスにキックスタート イメージおよびシステム イメージをインストールするには、**install all** コマンドを使用します。

install all

```
[kickstart {bootflash: | ftp://server[/path] | scp://[username@]server[/path] |
sftp://[username@]server[/path] | slot0: | tftp://server[:port]/[path] |
volatile;}kickstart-filename]
[system {bootflash: | ftp://server[/path] | scp://[username@]server[/path] |
sftp://[username@]server[/path] | slot0: | tftp://server[:port]/[path] | volatile;}system-filename]
```

シンタックスの説明

kickstart	(任意) キックスタート イメージファイルが指定されます。
system	(任意) システム イメージファイルが指定されます。
<i>kickstart-filename</i>	キックスタート イメージファイルの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>system-filename</i>	システム イメージファイルの名前。大文字と小文字が区別されます。
bootflash:	内部フラッシュ メモリが指定されます。
ftp:	FTP を使用してファイルがダウンロードされます。
<i>//server</i>	(任意) サーバの IPv4 アドレスまたは名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>/path</i>	(任意) ファイルへのパス。大文字と小文字が区別されます。
scp:	SCP を使用してファイルがダウンロードされます。
<i>username@</i>	(任意) サーバ上のユーザ名。大文字と小文字が区別されます。
sftp:	SFTP を使用してファイルがダウンロードされます。
slot0:	外部フラッシュ メモリが指定されます。
tftp:	TFTP を使用してファイルがダウンロードされます。
<i>port</i>	(任意) ポート番号
volatile:	デバイス上の揮発性メモリが指定されます。

デフォルト

パラメータを入力しない場合は、ブート変数の値が使用されます。
パスは、リモート サーバ上のユーザのデフォルト パスになります。

コマンド モード

任意のコマンド モード

サポートされるユーザ ロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

イメージ ファイルをリモート サーバからダウンロードしてインストールする際に、サーバまたはユーザ名に関する情報を入力しないと、その情報を入力するようにプロンプトが表示されます。

このコマンドを使用することで、キックスタート ブート変数およびシステム ブート変数が設定され、イメージ ファイルが冗長スーパーバイザ モジュールにコピーされます。

install all コマンドを使用すると、デバイス上の NX-OS ソフトウェアをダウングレードできます。ダウングレードの NX-OS ソフトウェアと、デバイスの現在の NX-OS の設定との非互換性を判別するには、**show incompatibility system** コマンドを使用し、設定の非互換性がある場合は解決します。

このコマンドでは、スーパーバイザ モジュールが 2 つあるデバイスにのみ NX-OS ソフトウェアをインストールします。スーパーバイザが 1 つのみのデバイスに新しい NX-OS ソフトウェアをインストールするには、**reload** コマンドを使用する必要があります（『Cisco NX-OS Software Upgrade Guide, Release 4.0』を参照）。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、bootflash: ディレクトリから Cisco NX-OS ソフトウェアをインストールする例を示します。

```
switch# install all kickstart bootflash:nx-os_kick.bin system bootflash:nx-os_sys.bin
```

次に、キックスタート ブート変数およびシステム ブート変数の設定値を使用して Cisco NX-OS ソフトウェアをインストールする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot kickstart bootflash:nx-os_kick.bin
switch(config)# boot system bootflash:nx-os_sys.bin
switch(config)# exit
switch# copy running-config startup-config
switch# install all
```

次に、SCP サーバから Cisco NX-OS ソフトウェアをインストールする例を示します。

```
switch# install all kickstart scp://adminuser@10.10.1.1/nx-os_kick.bin system
bootflash:scp://adminuser@10.10.1.1/nx-os_sys.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
boot kickstart	キックスタート イメージのブート変数が設定されます。
boot system	システム イメージのブート変数が設定されます。
reload	デバイスに新しい NX-OS ソフトウェアがリロードされます。
show incompatibility system	NX-OS システム ソフトウェア イメージ間の設定の非互換性が表示されます。
show version	ソフトウェア バージョンに関する情報が表示されます。

install fan-module epld

Electronically Programmable Logical Device (EPLD; 電子的にプログラム可能な論理デバイス) のイメージをファン モジュールにインストールするには、**install fan-module epld** コマンドを使用します。

```
install fan-module slot epld {bootflash: | slot0: | volatile:}filename
```

シンタックスの説明

<i>slot</i>	シャーシのスロット番号
bootflash:	内部フラッシュ メモリが指定されます。
slot0:	外部フラッシュ メモリが指定されます。
volatile:	揮発性メモリが指定されます。
<i>filename</i>	EPLD イメージ ファイルの名前

デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

EPLD イメージ ファイルをインストールする前に、そのファイルをローカル ストレージにコピーする必要があります。

他のモジュールを更新するには、このコマンドをアクティブ スーパーバイザ モジュールから入力します。

ファン モジュールの EPLD のバージョンを表示するには、**show version fan slot epld** コマンドを使用します。



注意

EPLD のアップグレードまたはダウングレードの進行中に、モジュールの挿入や取り外しは行わないでください。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例

次に、EPLD イメージをモジュールにインストールする例を示します。

```
switch# install fan-module 1 epld bootflash:n7000-s1-epld.4.0.2.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy	ファイルがコピーされます。
show version	ソフトウェア バージョンに関する情報が表示されます。

install license

ライセンスをインストールするには、**install license** コマンドを使用します。

```
install license {bootflash: | slot0: | usb0: | usb1:}src-filename [target-filename]
```

シンタックスの説明	
bootflash:	ライセンス ファイルの送信元の場所として内部フラッシュ メモリが指定されます。
slot0:	ライセンス ファイルの送信元の場所として外部フラッシュ メモリが指定されます。
usb0:	ライセンス ファイルの送信元の場所として外部 USB メモリが指定されます。
usb1:	ライセンス ファイルの送信元の場所として外部 USB メモリが指定されます。
<i>src-filename</i>	送信元のライセンス ファイルの名前
<i>target-filename</i>	(任意) ターゲットライセンス ファイルの名前

デフォルト ライセンスはインストールされません。

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ターゲット ファイル名が、送信元の場所に合わせて付けられた場合、ライセンス ファイルはその名前でインストールされます。それ以外の場合、送信元 URL のファイル名が使用されます。このコマンドは、ライセンス ファイルをインストールする前に、ファイルの検証も行います。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、bootflash: ディレクトリ内の license-file という名前のファイルをインストールする例を示します。

```
switch# install license bootflash:license-file
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show license	ライセンス情報が表示されます。

install module epld

Electronically Programmable Logical Device (EPLD; 電子的にプログラム可能な論理デバイス) のイメージをファブリック モジュールにインストールするには、**install module epld** コマンドを使用します。

```
install module slot epld {bootflash: | slot0: | volatile:}filename
```

シンタックスの説明

<i>slot</i>	シャーシのスロット番号
bootflash:	内部フラッシュ メモリが指定されます。
slot0:	外部フラッシュ メモリが指定されます。
volatile:	揮発性メモリが指定されます。
<i>filename</i>	EPLD イメージファイルの名前

デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

EPLD イメージファイルをインストールする前に、そのファイルをローカル ストレージにコピーする必要があります。

他のモジュールを更新するには、このコマンドをアクティブ スーパーバイザ モジュールから入力します。

ファブリック モジュールの EPLD のバージョンを表示するには、**show version module slot epld** コマンドを使用します。



注意

EPLD のアップグレードまたはダウングレードの進行中に、モジュールの挿入や取り外しは行わないでください。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例

次に、EPLD イメージをファブリック モジュールにインストールする例を示します。

```
switch# install module 2 epld bootflash:n7000-s1-epld.4.0.2.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy	ファイルがコピーされます。
show version	ソフトウェア バージョンに関する情報が表示されます。

install xbar-module epld

Electronically Programmable Logical Device (EPLD; 電子的にプログラム可能な論理デバイス) のイメージを I/O モジュールにインストールするには、**install xbar-module epld** コマンドを使用します。

```
install xbar-module slot epld {bootflash: | slot0: | volatile:}filename
```

シンタックスの説明	
<i>slot</i>	シャーシのスロット番号
bootflash:	内部フラッシュ メモリが指定されます。
slot0:	外部フラッシュ メモリが指定されます。
volatile:	揮発性メモリが指定されます。
<i>filename</i>	EPLD イメージファイルの名前

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン EPLD イメージ ファイルをインストールする前に、そのファイルをローカル ストレージにコピーする必要があります。

他のモジュールを更新するには、このコマンドをアクティブ スーパーバイザ モジュールから入力します。

I/O モジュールの EPLD のバージョンを表示するには、**show version xbar slot epld** コマンドを使用します。



注意

EPLD のアップグレードまたはダウングレードの進行中に、モジュールの挿入や取り外しは行わないでください。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、EPLD イメージを I/O モジュールにインストールする例を示します。

```
switch# install xbar-module 2 epld bootflash:n7000-s1-epld.4.0.2.bin
```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy	ファイルがコピーされます。
	show version	ソフトウェア バージョンに関する情報が表示されます。

line com1

COM1 ポートを指定して COM1 ポート コンフィギュレーション モードを開始するには、**line com1** コマンドを使用します。

line com1

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン COM1 回線は、コンソール ポート セッションまたは COM1 ポート セッションから設定できます。このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、COM1 ポート コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show line	COM1 ポートおよびコンソール ポートの設定に関する情報が表示されます。

line console

コンソール ポートを指定してコンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始するには、**line console** コマンドを使用します。

line console

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

コンソール回線は、コンソール ポート セッションからのみ設定できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show line	COM1 ポートおよびコンソール ポートの設定に関する情報が表示されます。

line vty

仮想ターミナルを指定してライン コンフィギュレーション モードを開始するには、**line vty** コマンドを使用します。

line vty

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show line	COM1 ポートおよびコンソール ポートの設定に関する情報が表示されます。

modem in

COM1 ポートまたはコンソール ポートでモデム接続をイネーブルにするには、**modem in** コマンドを使用します。モデム接続をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

modem in

no modem in

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード COM1 ポート コンフィギュレーション
コンソール ポート コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

コンソール ポートおよび COM1 ポートは、コンソール ポート上のセッションからのみ設定できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、COM1 ポートでモデム接続をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# modem in
```

次に、コンソール ポートでモデム接続をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem in
```

次に、コンソール ポートのモデム接続をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem in
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール ポート コンフィギュレーション モードが開始されます。
line com1	COM1 ポート コンフィギュレーション モードが開始されます。
show line	COM1 ポートおよびコンソール ポートの設定に関する情報が表示されます。

modem init-string

COM1 ポートまたはコンソール ポートに接続されているモデムに初期化ストリングをダウンロードするには、**modem init-string** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
modem init-string {default | user-input}
```

```
no modem init-string
```

シンタックスの説明

default	デフォルトの初期化ストリングがダウンロードされます。
user-input	ユーザ入力の初期化ストリングがダウンロードされます。

デフォルト

デフォルトの初期化ストリングは、ATE0Q1&D2&C1S0=1\015 です。

コマンドモード

COM1 ポート コンフィギュレーション
コンソール ポート コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

コンソール ポートおよび COM1 ポートは、コンソール ポート上のセッションからのみ設定できません。

デフォルトの初期化ストリングである ATE0Q1&D2&C1S0=1\015 は、次のように定義されます。

- AT — アテンション
- E0 (必須) — エコーなし
- Q1 — 結果コードがオン
- &D2 — 通常の Data Terminal Ready (DTR; データ ターミナル レディ) オプション
- &C1 — データ キャリア ステート追跡のイネーブル化
- S0=1 — 1 つのリングのあとに応答
- \015 (必須) — 復帰 (8 進数)

ユーザ入力の初期化ストリングを設定するには、**modem set-string** コマンドを使用します。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例

次に、COM1 ポートに接続されているモデムにデフォルトの初期化ストリングをダウンロードする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# modem init-string default
```

次に、コンソール ポートに接続されているモデムにデフォルトの初期化ストリングをダウンロードする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string default
```

次に、COM1 ポートに接続されているモデムにユーザ入力の初期化ストリングをダウンロードする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# modem init-string user-input
```

次に、コンソール ポートに接続されているモデムにユーザ入力の初期化ストリングをダウンロードする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string user-input
```

次に、COM1 ポートに接続されているモデムの初期化ストリングをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# no modem init-string
```

次に、コンソール ポートに接続されているモデムの初期化ストリングをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem init-string
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール ポート コンフィギュレーション モードが開始します。
line com1	COM1 ポート コンフィギュレーション モードが開始します。
modem set-string user-input	モデムにユーザ入力の初期化ストリングが設定されます。
show line	COM1 ポートおよびコンソール ポートの設定に関する情報が表示されます。

modem set-string user-input

COM1 ポートまたはコンソール ポートに接続されているモデムにダウンロードするユーザ入力の初期化ストリングを設定するには、**modem set-string user-input** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

modem set-string user-input *string*

no modem set-string

シンタックスの説明	<i>string</i>	ユーザ入力のストリング。このストリングは、100 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、特殊文字を含めることができます。
------------------	---------------	---

デフォルト なし

コマンドモード COM1 ポート コンフィギュレーション
コンソール ポート コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

コンソール ポートおよび COM1 ポートは、コンソール ポート上のセッションからのみ設定できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、COM1 ポートに接続されているモデムでのユーザ入力の初期化ストリングを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# modem set-string user-input ATE0Q1&D2&C1S0=3\015
```

次に、コンソール ポートに接続されているモデムでのユーザ入力の初期化ストリングを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string user-input ATE0Q1&D2&C1S0=3\015
```

次に、COM1 ポートに接続されているモデムでのユーザ入力の初期化ストリングをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# no modem set-string
```

次に、コンソール ポートに接続されているモデムでのユーザ入力の初期化ストリングをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem set-string
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール ポート コンフィギュレーション モードが開始します。
line com1	COM1 ポート コンフィギュレーション モードが開始します。
modem init-string	ユーザ入力の初期化ストリングがモデムにダウンロードされます。
show line	COM1 ポートおよびコンソール ポートの設定に関する情報が表示されます。

move

ディレクトリ内のファイルを別のディレクトリに移動するには、**move** コマンドを使用します。

```
move [filesystem:[//module/][directory/] | directory/]source-filename { {filesystem:[//module/][directory/]
| directory/}[destination-filename] | target-filename }
```

シンタックスの説明	
<i>filesystem:</i>	(任意) ファイルシステムの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>//module/</i>	(任意) スーパーバイザ モジュールの ID。有効な値は、 sup-active 、 sup-local 、 sup-remote 、または sup-standby です。ID では、大文字と小文字が区別されます。
<i>directory/</i>	(任意) ディレクトリの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>source-filename</i>	移動するファイルの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>destination-filename</i>	(任意) 移動先ファイルの名前。64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。

デフォルト

移動先ファイルのデフォルト名は、移動元ファイル名と同じです。

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファイルのコピーは、**copy** コマンドを使用して作成できます。



ヒント

ファイルを同じディレクトリ内で移動すると、ファイル名を変更できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例

次に、ファイルを別のディレクトリに移動する例を示します。

```
switch# move file1 my_files:file2
```

次に、ファイルを別のファイルシステムに移動する例を示します。

```
switch# move file1 slot0:
```

次に、ファイルを別のスーパーバイザ モジュールに移動する例を示します。

```
switch# move file1 bootflash://sup-remote/file1.bak
```


関連コマンド

コマンド	説明
<code>cd</code>	現在の作業ディレクトリが変更されます。
<code>copy</code>	ファイルのコピーが作成されます。
<code>dir</code>	ディレクトリの内容が表示されます。
<code>pwd</code>	現在の作業ディレクトリの名前が表示されます。

parity

COM1 ポートまたはコンソール ポートのパリティを設定するには、**parity** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
parity {even | none | odd}
```

```
no parity {even | none | odd}
```

シンタックスの説明

even	偶数パリティが指定されます。
none	パリティなしが指定されます。
odd	奇数パリティが指定されます。

デフォルト

none キーワードがデフォルトです。

コマンドモード

COM1 ポート コンフィギュレーション
コンソール ポート コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

コンソール ポートおよび COM1 ポートは、コンソール ポート上のセッションからのみ設定できません。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例

次に、COM1 ポートのパリティを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# parity even
```

次に、コンソールポートのパリティを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# line console  
switch(config-console)# parity even
```

次に、COM1ポートのパリティをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# line com1  
switch(config-com1)# no parity even
```

次に、コンソールポートのパリティをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# line console  
switch(config-console)# no parity even
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show line</code>	COM1ポートおよびコンソールポートの設定に関する情報が表示されます。

ping

別のデバイスへのネットワーク接続を IPv4 アドレス指定を使用して特定するには、**ping** コマンドを使用します。

```
ping {dest-ipv4-address | hostname} [count {number | unlimited}] [df-bit] [interval seconds]
[packet-size bytes] [source src-ipv4-address] [timeout seconds] [vrf vrf-name]
```

シンタックスの説明

<i>dest-ipv4-address</i>	宛先デバイスの IPv4 アドレス。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスのホスト名。大文字と小文字が区別されます。
count	(任意) 送信数が指定されます。
<i>number</i>	PING の数。範囲は 1 ~ 655350 で、デフォルトは 5 です。
unlimited	無限の数の PING が許可されます。
df-bit	(任意) IPv4 ヘッダーの do-not-fragment ビットがイネーブルになります。デフォルトはディセーブルです。
interval seconds	(任意) 送信間隔が秒数で指定されます。範囲は 0 ~ 60 で、デフォルトは 1 秒です。
packet-size bytes	(任意) 送信するパケットのサイズがバイト数で指定されます。範囲は 1 ~ 65468 で、デフォルトは 56 バイトです。
source src-ipv4-address	(任意) 使用する送信元 IPv4 アドレスが指定されます。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。デフォルトは、デバイスの管理インターフェイスの IPv4 アドレスです。
timeout seconds	(任意) 応答がない場合のタイムアウト間隔が秒数で指定されます。範囲は 1 ~ 60 で、デフォルトは 2 秒です。
vrf vrf-name	(任意) VRF 名が指定されます。デフォルトは、デフォルトの VRF です。

デフォルト

デフォルト値については、このコマンドの「シンタックスの説明」を参照してください。

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

別のデバイスへのネットワーク接続を IPv6 アドレス指定を使用して特定するには、**ping6** コマンドを使用します。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、別のデバイスへの接続を IPv4 アドレス指定を使用して判別する例を示します。

```
switch# ping 172.28.231.246 vrf management
PING 172.28.231.246 (172.28.231.246): 56 data bytes
Request 0 timed out
64 bytes from 172.28.231.246: icmp_seq=1 ttl=63 time=0.799 ms
64 bytes from 172.28.231.246: icmp_seq=2 ttl=63 time=0.597 ms
64 bytes from 172.28.231.246: icmp_seq=3 ttl=63 time=0.711 ms
64 bytes from 172.28.231.246: icmp_seq=4 ttl=63 time=0.67 ms

--- 172.28.231.246 ping statistics ---
5 packets transmitted, 4 packets received, 20.00% packet loss
round-trip min/avg/max = 0.597/0.694/0.799 ms
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping6	IPv6 アドレス指定により、別のデバイスへの接続が特定されます。

ping6

別のデバイスへのネットワーク接続を IPv6 アドレス指定を使用して判別するには、**ping6** コマンドを使用します。

```
ping6 {dest-ipv6-address | hostname} [count {number | unlimited}] [interface intf-id] [interval seconds]
[packet-size bytes] [source ipv6-address] [timeout seconds] [vrf vrf-name]
```

シンタックスの説明

<i>dest-ipv6-address</i>	宛先デバイスの IPv6 アドレス。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスのホスト名。大文字と小文字が区別されます。
count	(任意) 送信の数が指定されます。
<i>number</i>	PING の数。範囲は 1 ～ 655350 で、デフォルトは 5 です。
unlimited	無限数の PING が許可されます。
interface <i>intf-id</i>	(任意) IPv6 パケットを送信するインターフェイスが指定されます。有効なインターフェイスのタイプは、イーサネット、ループバック、ポートチャンネル、および VLAN です。
interval <i>seconds</i>	(任意) 送信間隔が秒数で指定されます。範囲は 0 ～ 60 で、デフォルトは 1 秒です。
packet-size <i>bytes</i>	(任意) 送信するパケットのサイズがバイト数で指定されます。範囲は 1 ～ 65468 です。
source <i>ipv6-address</i>	(任意) 使用する送信元 IPv6 アドレスが指定されます。フォーマットは、 <i>A:B::C:D</i> です。デフォルトは、デバイスの管理インターフェイスの IPv6 アドレスです。
timeout <i>seconds</i>	(任意) 応答がない場合のタイムアウト間隔が秒数で指定されます。範囲は 1 ～ 60 で、デフォルトは 2 秒です。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意) VRF 名が指定されます。デフォルトは、デフォルトの VRF です。

デフォルト

デフォルト値については、このコマンドの「シンタックスの説明」を参照してください。

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

別のデバイスへのネットワーク接続を IPv6 アドレス指定を使用して判別するには、**ping** コマンドを使用します。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例

次に、別のデバイスへの接続を IPv6 アドレス指定を使用して判別する例を示します。

```
switch# ping6 2001:0DB8::200C:417A vrf management
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ping	IPv6 アドレス指定により、別のデバイスへの接続が特定されます。

power redundancy-mode

電源の冗長モードを設定するには、**power redundancy-mode** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
power redundancy-mode {combined | insrc-redundant | ps-redundant | redundant}
```

```
no power redundancy-mode {combined | insrc-redundant | ps-redundant | redundant}
```

シンタックスの説明	オプション	説明
	combined	複合電源モードが指定されます。
	insrc-redundant	入力電源冗長モードが指定されます。
	ps-redundant	電源サポート冗長モードが指定されます。
	redundant	完全冗長モードが指定されます。

デフォルト **ps-redundant**

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

電源は、次のモードに設定できます。

- 複合モード — これは、最も簡素な電源モードですが、電源の冗長性がありません。このモードで使用できる電源は、すべての電源モジュールの合計の電力です。
- 電源冗長モード — このモードでは、アクティブな電源モジュールが停止した場合に備えて、予備の電源が用意されます。このモードの場合、最大電力を供給できる電源モジュールがスタンバイモードで動作します。他の 1 台または 2 台の電源モジュールはアクティブになります。使用できる電力は、アクティブな電源ユニットから供給される電力量です。
- 入力電源冗長モード — このモードでは、2 つの電気システムを使用し、各システムがそれぞれの電源内の各モジュールの半分に電力を供給します。一方の電源システムが停止すると、各電源モジュールには、他方の半分のモジュールから電力が供給され続けます。使用できる電力は、2 つのシステムのうちの電力が小さい方から供給される電力です。
- 完全冗長モード — このモードは、電源冗長と入力電源冗長を組み合わせたものです。つまり、シャーンには予備の電源があり、各電源モジュールの半分が一方の電気システムに接続され、残りの半分が他方の電気システムに接続されます。使用できる電力は、電源モードで使用できる電力と、入力電源モードで使用できる電力のうち、小さい方です。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例

次に、電源冗長モードを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# power redundancy-mode redundant
```

次に、電源冗長モードをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# no power redundancy-mode redundant
```

関連コマンド

コマンド	説明
show environment	デバイスのハードウェア環境に関する情報が表示されます。

poweroff module

I/O モジュールの電源をオフにするには、**poweroff module** コマンドを使用します。モジュールの電源をオンにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

poweroff module slot

no poweroff module slot

シンタックスの説明	<i>slot</i>	I/O モジュールのスロット番号
デフォルト	なし	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション	
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	<p>このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。</p> <p>このコマンドにはライセンスは不要です。</p>	
例	<p>次に、I/O モジュールの電源をオフにする例を示します。</p> <pre>switch# configure terminal switch(config)# poweroff module 2</pre> <p>次に、I/O モジュールの電源をオンにする例を示します。</p> <pre>switch# configure terminal switch(config)# no poweroff module 2</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	show module	モジュールのステータス情報が表示されます。

purge module running-config

存在しないモジュールの設定を実行コンフィギュレーションから削除するには、**purge module** コマンドを使用します。

purge module *slot* running-config

シンタックスの説明	<i>slot</i>	シャーシのスロット
デフォルト	なし	
コマンド モード	任意のコマンド モード	
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	<p>このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。</p> <p>どのモジュールが存在しないかを確認するには、show hardware コマンドを使用します。</p> <p>このコマンドにはライセンスは不要です。</p>	
例	<p>次に、存在しないモジュールの設定を実行コンフィギュレーションから削除する例を示します。</p> <pre>switch# purge module 1 running-config</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	show running-config	実行コンフィギュレーションが表示されます。

reload

NX-OS デバイス全体をリロードするには、**reload** コマンドを使用します。

reload [soft]

シンタックスの説明	soft	(任意) アクティブ スーパーバイザ モジュールに CMP をリロードしないように指定されます。
------------------	-------------	--

デフォルト デバイス全体がリロードされます。

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

reload コマンドでは、デバイス上のトラフィックを中断します。



(注) reload コマンドでは、実行コンフィギュレーションは保存されません。デバイスの現在の設定を保存するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、NX-OS デバイスをリロードする例を示します。

```
switch# copy running-config startup-config
[#####] 100%
switch# reload
This command will reboot the system. (y/n)? [n] y
```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy running-config startup-config	現在の実行コンフィギュレーションがスタートアップ コンフィギュレーションにコピーされます。
	show version	ソフトウェアバージョンに関する情報が表示されます。

reload cmp module

Connectivity Management Processor (CMP; 接続管理プロセッサ) をリロードするには、**reload cmp module** コマンドを使用します。

```
reload cmp module slot
```

シンタックスの説明	<i>slot</i>	シャーシのスロット番号
デフォルト	なし	
コマンド モード	任意のコマンド モード	
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	<p>このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。</p> <p>使用しているデバイスでの CMP の場所を特定するには、show hardware コマンドを使用します。</p> <p>このコマンドにはライセンスは不要です。</p>	
例	<p>次に、スロット 5 のスーパーバイザ モジュールに CMP をリロードする例を示します。</p> <pre>switch# reload cmp module 5</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	show version	ソフトウェア バージョンに関する情報が表示されます。

reload module

デバイスにモジュールをリロードするには、**reload module** コマンドを使用します。

```
reload module slot [force-dnld]
```

シンタックスの説明	slot	シャーシのスロット番号
	force-dnld	(任意) ソフトウェアがモジュールに強制的にダウンロードされます。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザ ロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

使用しているデバイス上のハードウェアに関する情報を表示するには、**show hardware** コマンドを使用します。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、モジュールをリロードする例を示します。

```
switch# reload module 2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show version	ソフトウェア バージョンに関する情報が表示されます。

rmdir

ディレクトリを削除するには、**rmdir** コマンドを使用します。

```
rmdir [filesystem://module/]directory
```

シンタックスの説明	
<i>filesystem:</i>	(任意) ファイルシステムの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>//module/</i>	(任意) スーパーバイザ モジュールの ID。有効な値は、 sup-active 、 sup-local 、 sup-remote 、または sup-standby です。ID では、大文字と小文字が区別されます。
<i>directory</i>	ディレクトリの名前。大文字と小文字が区別されます。

デフォルト ディレクトリが現在の作業ディレクトリから削除されます。

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、ディレクトリを削除する例を示します。

```
switch# rmdir my_files
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリが変更されます。
	dir	ディレクトリの内容が表示されます。
	pwd	現在の作業ディレクトリの名前が表示されます。

run-script

コマンド スクリプト ファイルを CLI (コマンドライン インターフェイス) で実行するには、**run-script** コマンドを使用します。

```
run-script [filesystem:[//module/]][directory/]filename
```

シンタックスの説明	
<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>//module/</i>	(任意) スーパーバイザ モジュールの ID。有効な値は、 sup-active 、 sup-local 、 sup-remote 、または sup-standby です。ID では、大文字と小文字が区別されます。
<i>directory/</i>	(任意) ディレクトリの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	コマンドファイルの名前。大文字と小文字が区別されます。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザ ロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン コマンド ファイルをリモート デバイス上に作成し、**copy** コマンドを使用してそのファイルを NX-OS デバイスにダウンロードする必要があります。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、コマンド スクリプト ファイルを実行する例を示します。

```
switch# run-script script-file
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリが変更されます。
	copy	ファイルがコピーされます。
	dir	ディレクトリの内容が表示されます。
	pwd	現在の作業ディレクトリの名前が表示されます。

send

メッセージをアクティブ ユーザ セッションに送信するには、**send** コマンドを使用します。

send [*session line*] *text*

シンタックスの説明	session line	(任意) ユーザセッションが指定されます。
	text	テキストストリング。80 文字以内の英数字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。

デフォルト メッセージがすべてのアクティブ ユーザ セッションに送信されます。

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **show users** コマンドを使用すると、アクティブ ユーザ セッションに関する情報を表示できます。このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、デバイス上のすべてのアクティブ ユーザ セッションにメッセージを送信する例を示します。

```
switch# send The system will reload in 15 minutes!
The system will reload in 15 minutes!
```

次に、特定のユーザセッションにメッセージを送信する例を示します。

```
switch# send session pts/39 You must log off the device.
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show users	デバイス上のアクティブ ユーザセッションが表示されます。

setup

デバイスの基本セットアップ ダイアログを開始するには、**setup** コマンドを使用します。

setup

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン セットアップ スクリプトでは、ユーザが設定した値ではなく、出荷時のデフォルト値が使用されます。このダイアログは、Ctrl-C を押すと、いつでも終了できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、デバイスの基本セットアップ スクリプトを開始する例を示します。

```
switch# setup

----- Basic System Configuration Dialog VDC: 1 -----

This setup utility will guide you through the basic configuration of
the system. Setup configures only enough connectivity for management
of the system.

*Note: setup is mainly used for configuring the system initially,
when no configuration is present. So setup always assumes system
defaults and not the current system configuration values.

Press Enter at anytime to skip a dialog. Use ctrl-c at anytime
to skip the remaining dialogs.

Would you like to enter the basic configuration dialog (yes/no):
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show running-config	実行コンフィギュレーションが表示されます。

session-limit

デバイス上の同時仮想ターミナルセッションの最大数を設定するには、**session-limit** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

session-limit sessions

no session-limit sessions

シンタックスの説明	<i>sessions</i>	セッションの最大数。範囲は 1 ~ 64 です。
------------------	-----------------	--------------------------

デフォルト	32 セッション
--------------	----------

コマンドモード	ライン コンフィギュレーション
----------------	-----------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドにはライセンスは不要です。
-------------------	---------------------

例	次に、同時仮想ターミナルセッションの最大数を設定する例を示します。
----------	-----------------------------------

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# session-limit 48
```

次に、同時仮想ターミナルセッションの最大数をデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# no session-limit 48
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show running-config	実行コンフィギュレーションが表示されます。

show banner motd

MoTD (Message-of-The-Day) バナーを表示するには、**show banner motd** コマンドを使用します。

show banner motd

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、MoTD バナーを表示する例を示します。

```
switch# show banner motd
Unauthorize access prohibited!
```

関連コマンド	コマンド	説明
	banner motd	MoTD バナーが設定されます。

show boot

ブート変数の設定を表示するには、**show boot** コマンドを使用します。

show boot [auto-copy | module [slot] | sup-1 | sup-2 | variables]

シンタックスの説明	
auto-copy	(任意) ブートの自動コピーのステータスが表示されます。
module	(任意) I/O モジュールに設定されているブート変数が表示されます。
<i>slot</i>	(任意) シャーシのスロット番号
sup-1	(任意) スーパーバイザ モジュール 1 (sup-1) に設定されているブート変数が表示されます。
sup-2	(任意) スーパーバイザ モジュール 2 (sup-2) に設定されているブート変数が表示されます。
variable	(任意) ブート変数のリストが表示されます。

デフォルト 設定されているすべてのブート変数が表示されます。

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン sup-1 は、2 つのスーパーバイザ モジュールがあるシャーシの上位のスーパーバイザ モジュールを指し、sup-2 は下位のスーパーバイザ モジュールを指します。たとえば、Cisco NX-OS 7010 デバイスでは、sup-1 はスロット 5 にあり、sup-2 はスロット 6 にあります。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、設定されているすべてのブート変数を表示する例を示します。

```
switch# show boot
sup-1
kickstart variable = bootflash:/n7000-s1-kickstart.4.0.2.bin
system variable = bootflash:/n7000-s1-dk9.4.0.2.bin
sup-2
kickstart variable = bootflash:/n7000-s1-kickstart.4.0.2.bin
system variable = bootflash:/n7000-s1-dk9.4.0.2.bin
No module boot variable set
```

次に、スーパーバイザ モジュール 1 のブート変数を表示する例を示します。

```
switch# show boot sup-1
sup-1
kickstart variable = bootflash:/n7000-s1-kickstart.4.0.2.bin
system variable = bootflash:/n7000-s1-dk9.4.0.2.bin
```

次に、ブート変数名のリストを表示する例を示します (フィールドの説明については、表 5 を参照)。

```
switch# show boot variables
ssi
system
asm-sfn
kickstart
```

表 5 show boot variables のフィールドの説明

フィールド	説明
ssi	サポート対象外
system	システム イメージ ファイル名の変数の名前
asm-sfn	サポート対象外
kickstart	キックスタート イメージ ファイル名の変数の名前

関連コマンド

コマンド	説明
boot auto-copy	スタンバイ スーパーバイザ モジュールへのブート イメージの自動コピーがイネーブルになります。
boot kickstart	キックスタート イメージのブート変数が設定されます。
boot system	システム イメージのブート変数が設定されます。

show cli alias

コマンドエイリアスの設定を表示するには、**show cli alias** コマンドを使用します。

```
show cli alias [name alias-name]
```

シンタックスの説明	name <i>alias-name</i> (任意) コマンドエイリアスの名前が指定されます。大文字と小文字は区別されません。
------------------	---

デフォルト 設定されているすべてのコマンドエイリアス変数が表示されます。

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、設定されているすべてのコマンドエイリアスを表示する例を示します。

```
switch# show cli alias
CLI alias commands
=====
ethint      :interface ethernet
shintbr    :show interface br
shintupbr  :shintbr | include up | include ethernet
alias      :show cli alias
crun       :copy running-config startup-config
```

次に、特定のコマンドエイリアスを表示する例を示します。

```
switch# show cli alias name ethint
ethint :interface ethernet
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cli alias name	コマンドエイリアスが設定されます。

show cli history

コマンド履歴を表示するには、**show cli history** コマンドを使用します。

show cli history [*lines*] [**unformatted**]

シンタックスの説明	<i>lines</i>	(任意) コマンド履歴行の最後の行を何行表示するかを示す値
	unformatted	(任意) コマンドは、行番号およびタイムスタンプなしで表示されます。

デフォルト 履歴全体が、行番号およびタイムスタンプ付きで表示されます。

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、すべてのコマンド履歴を表示する例を示します。

```
switch# show cli history
0 22:59:13 show boot
1 23:00:05 show boot sup-1
2 23:01:23 show boot variables
3 23:20:28 config t
4 23:22:16 end
5 23:22:25 show cli alias
6 00:00:10 show cli alias name ethint
...
```

次に、コマンド履歴の最後の 10 行を表示する例を示します。

```
switch# show cli history 10
42 00:42:54 ip route 0.0.0.0/0 172.28.230.1
43 00:42:54 interface mgmt0
44 00:42:54 ip address 172.28.231.193/23
45 00:42:54 no shutdown
46 00:42:54 aaa group server radius aaa-private-sg
47 00:42:54 use-vrf management
48 00:42:54 telnet server enable
49 00:42:54 logging server 172.28.254.254
50 00:42:54 power redundancy-mode combined
51 00:43:28 show cli history 10
```

次に、コマンド履歴を行番号およびタイムスタンプなしで表示する例を示します。

```
switch# show cli history unformatted
config t
vrf context management
ip route 0.0.0.0/0 172.28.230.1
interface mgmt0
ip address 172.28.231.193/23
no shutdown
aaa group server radius aaa-private-sg
use-vrf management
telnet server enable
logging server 172.28.254.254
power redundancy-mode combined
show cli history unformatted
```

show cli variables

CLI 変数の設定を表示するには、**show cli variables** コマンドを使用します。

show cli variables

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、CLI 変数を表示する例を示します。

```
switch# show cli variables
VSH Variable List
-----
TIMESTAMP="2008-06-13-01.14.09"
testinterface="ethernet 2/3"
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cli var name	CLI 変数が設定されます。

show clock

クロックの設定を表示するには、**show clock** コマンドを使用します。

show clock [detail]

シンタックスの説明	detail (任意) サマータイム (夏時間) のオフセット設定が表示されます。
------------------	--

デフォルト	設定されているすべてのコマンドエイリアス変数が表示されます。
--------------	--------------------------------

コマンドモード	任意のコマンドモード
----------------	------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者 ネットワーク オペレータ vdc オペレータ
----------------------	---

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドにはライセンスは不要です。
-------------------	---------------------

例	次に、クロックの設定を表示する例を示します。
----------	------------------------

```
switch# show clock
Fri Jun 13 02:19:20 PDT 2008
```

次に、クロックの設定およびサマータイム (夏時間) の設定を表示する例を示します。

```
switch# show clock detail
Fri Jun 13 02:19:02 PDT 2008
summer-time configuration:
-----
timezone name: PDT
starts       : 1 Sunday March at 02:00 hours
Ends        : 1 Sunday November at 02:00 hours
Minute offset: 60
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clock set	クロック時刻が設定されます。
	clock summer-time	サマータイム (夏時間) のオフセットが設定されます。

show copyright

Cisco NX-OS ソフトウェアの著作権情報を表示するには、**show copyright** コマンドを使用します。

show copyright

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、Cisco NX-OS の著作権情報を表示する例を示します。

```
switch# show copyright
Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software
TAC support: http://www.cisco.com/tac
Copyright (c) 2002-2008, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained in this software are
owned by other third parties and used and distributed under
license. Certain components of this software are licensed under
the GNU General Public License (GPL) version 2.0 or the GNU
Lesser General Public License (LGPL) Version 2.1. A copy of each
such license is available at
http://www.opensource.org/licenses/gpl-2.0.php and
http://www.opensource.org/licenses/lgpl-2.1.php
```

show debug logfile

デバッグ ログファイルの内容を表示するには、**show debug-logfile** コマンドを使用します。

```
show debug logfile filename
```

シンタックスの説明	<i>filename</i>	デバッグ ログファイルの名前
------------------	-----------------	----------------

デフォルト	なし
--------------	----

コマンドモード	任意のコマンドモード
----------------	------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者 ネットワーク オペレータ vdc オペレータ
----------------------	---

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	ログファイルは、log: ファイルシステムに含まれています。 このコマンドにはライセンスは不要です。
-------------------	---

例	次に、デバッグ ログファイルの内容を表示する例を示します。
----------	-------------------------------

```
switch# show debug logfile syslogd_debugs
Dropping the mts message
Dropping MTS notif(not a reject) reference, from: 0x00000601/22000, To: 0x000006
01/32, Opcode: 8888, MsgID: 38388549, rr_token: 0
Jun  9 23:49:58 2008
select_and_process_log_messages :: Successful select, count = 1, Activity on: 9
Jun  9 23:49:58 2008 Message from UNIX socket: #9
Jun  9 23:49:58 2008 printchopped :: Message - <15>Jun  9 23:49:58 aaad: Semapho
re lock success
, Length - 52, FD - 9
Jun  9 23:49:58 2008 printchopped :: Calling copy_message(do loop), message - <1
5>Jun  9 23:49:58 aaad: Semaphore lock success
...
```

関連コマンド	コマンド	説明
	debug logfile	デバッグ ログファイルが設定されます。

show file

ローカル メモリ上のファイルの内容を表示するには、**show file** コマンドを使用します。

```
show file [filesystem:][//directory/]filename
```

シンタックスの説明	
<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash 、 debug 、 logflash 、 slot0 、 usb1 、 usb2 、または volatile です。
<i>//directory/</i>	(任意) ディレクトリの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	ファイルの名前。大文字と小文字が区別されます。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード
 ネットワーク管理者
 vdc 管理者
 ネットワーク オペレータ
 vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、ファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file scriptfile
configure terminal
interface $(testinterface)
no shutdown
end
show interface $(testinterface)
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリが変更されます。
	dir	ディレクトリの内容が表示されます。
	pwd	現在の作業ディレクトリの名前が表示されます。

show hostname

デバイスのホスト名を表示するには、**show hostname** コマンドを使用します。

show hostname

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **show switchname** コマンドでも、デバイスのホスト名が表示されます。
このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、デバイスのホスト名を表示する例を示します。

```
switch# show hostname
switch
```

関連コマンド	コマンド	説明
	hostname	デバイスのホスト名が設定されます。
	show switchname	ホスト名が表示されます。

show incompatibility system

実行中のシステム イメージと、Cisco NX-OS ソフトウェアをダウングレードする前のシステム イメージとの設定の非互換性を表示するには、**show incompatibility system** コマンドを使用します。

show incompatibility system {bootflash: | slot0: | volatile:}filename

シンタックスの説明	
bootflash:	内部フラッシュ メモリが指定されます。
slot0:	外部フラッシュ メモリが指定されます。
volatile:	デバイス上の揮発性メモリが指定されます。
<i>filename</i>	ロードしたソフトウェア イメージと比較するシステム イメージのファイル名

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザ ロール ネットワーク 管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、設定の非互換性を表示する例を示します。

```
switch# show incompatibility system bootflash:old_image.bin
The following configurations on active are incompatible with the system image
1) Service : eth_port_channel , Capability : CAP_FEATURE_AUTO_CREATED_PORT_CHANNEL
Description : active mode port channels, auto create enabled ports or auto created
port-channels are present
Capability requirement : STRICT
Disable command : 1.Convert Active mode port channels to On mode port channels (no
channel
mode active).
2.Disable autocreate on interfaces (no channel-group auto).
3.Convert autocreated port channels to be persistent (port-channel 1 persistent).
```

show install all

`install all` コマンドの動作に関連する情報を表示するには、`show install all` コマンドを使用します。

`show install all {failure-reason | impact [kickstart | system] | status}`

シンタックスの説明	
failure-reason	ソフトウェアのインストールが失敗した理由が表示されます。
impact	ブート変数で参照されるイメージをインストールすることで生じる影響が表示されます。
kickstart	(任意) キックスタート ブート変数で参照されるキックスタート イメージをインストールすることで生じる影響が表示されます。
system	(任意) キックスタート ブート変数で参照されるシステム イメージをインストールすることで生じる影響が表示されます。
status	ソフトウェア インストール プロセスのステータスが表示されます。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、インストールが失敗した理由を表示する例を示します。

```
switch# show install all failure-reason
No install all failure-reason
```

次に、新しいイメージをインストールすることで生じる影響を表示する例を示します。

```
switch# show install all impact

Verifying image bootflash:/n7000-s1-kickstart.4.0.2.bin for boot variable "
kickstart".
[#####] 100% -- SUCCESS

Verifying image bootflash:/n7000-s1-dk9.4.0.2.bin for boot variable "system
".
[#####] 100% -- SUCCESS

Verifying image type.
[#####] 100% -- SUCCESS

Extracting "lcln7k" version from image bootflash:/n7000-s1-dk9.4.0.2.bin.
[#####] 100% -- SUCCESS

Extracting "bios" version from image bootflash:/n7000-s1-dk9.4.0.2.bin.
[#####] 100% -- SUCCESS

Extracting "system" version from image bootflash:/n7000-s1-dk9.4.0.2.bin.
[#####] 100% -- SUCCESS

Extracting "kickstart" version from image bootflash:/n7000-s1-kickstart.4.0.2.gb
in.S22.
[#####] 100% -- SUCCESS
```

Compatibility check is done:

Module	bootable	Impact	Install-type	Reason
2	yes	non-disruptive	none	
6	yes	non-disruptive	none	

Images will be upgraded according to following table:

Module	Image	Running-Version(pri:alt)	New-Versi
on	Upg-Required		
2	lcln7k	4.0(2)	4.0(
2)	no		
2	bios	v1.10.5(02/27/08): v1.10.5(02/27/08)	v1.10.5(02/27/0
8)	no		
6	system	4.0(2)	4.0(
2)	no		
6	kickstart	4.0(2)	4.0(
2)	no		
6	bios	v3.17.0(03/23/08): v3.17.0(03/23/08)	v3.17.0(03/23/0
8)	no		

次に、ソフトウェアのインストールのステータスを表示する例を示します。

```
switch# show install all impact

There is an on-going installation...

Enter Ctrl-C to go back to the prompt.

Verifying image bootflash:/n7000-s1-kickstart.4.0.2.bin

-- SUCCESS

Verifying image bootflash:/n7000-s1-dk9.4.0.2.bin

-- SUCCESS

Extracting "system" version from image bootflash:/n7000-s1-dk9.4.0.2.bin.

-- SUCCESS

Extracting "kickstart" version from image bootflash:/n7000-s1-kickstart.4.0.2.bin.

-- SUCCESS

Extracting "loader" version from image bootflash:/n7000-s1-kickstart.4.0.2.bin.

-- SUCCESS
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>install all</code>	ソフトウェアが物理デバイスにインストールされます。
<code>show boot</code>	ブート変数の設定が表示されます。

show license

ライセンス情報を表示するには、**show license** コマンドを使用します。

```
show license [brief | file filename]
```

シンタックスの説明	brief	(任意) デバイスにインストールされているライセンス ファイルのリストが表示されます。
	file filename	(任意) 特定のライセンス ファイルの情報が表示されます。

デフォルト インストールされているライセンスの情報が表示されます。

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、デバイスにインストールされている特定のライセンスを表示する例を示します。

```
switch# show license file Enterprise.lic
Enterprise.lic:
SERVER this_host ANY
VENDOR cisco
INCREMENT LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG cisco 1.0 permanent uncounted \
  VENDOR_STRING=<LIC_SOURCE>MDS_SWIFT</LIC_SOURCE><SKU>N7K-LAN1K9=</SKU> \
  HOSTID=VDH=TBC10412106 \
  NOTICE="<LicFileID>20071025133322456</LicFileID><LicLineID>1</LicLineID>
 \
  <PAK></PAK>" SIGN=0CC6E2245FBE
```

次に、デバイスにインストールされているライセンス ファイルのリストを表示する例を示します。

```
switch# show license brief
Enterprise.lic:
```

次に、デバイスにインストールされているすべてのライセンスを表示する例を示します。

```
switch# show license
Enterprise.lic:
SERVER this_host ANY
VENDOR cisco
INCREMENT LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG cisco 1.0 permanent uncounted \
  VENDOR_STRING=<LIC_SOURCE>MDS_SWIFT</LIC_SOURCE><SKU>N7K-LAN1K9=</SKU> \
  HOSTID=VDH=TBC10412106 \
  NOTICE="<LicFileID>20071025133322456</LicFileID><LicLineID>1</LicLineID>
 \
  <PAK></PAK>" SIGN=0CC6E2245FBE
```

show license host-id

ライセンスの要求に使用するシャーシのシリアル番号を表示するには、**show license host-id** コマンドを使用します。

show license host-id

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン シリアル番号は、コロン (:) のあとに表示されるストリング全体です。
このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、ホスト ID (ノードロック ライセンスの要求に必要) を表示する例を示します。

```
switch# show license host-id  
License hostid:VDH=4C0AF664
```

show license usage

ライセンス使用状況の情報を表示するには、**show license usage** コマンドを使用します。

```
show license usage [vdc-all] [LAN_ADVANCED_SERVICES_PKG |
LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG]
```

シンタックスの説明	説明
vdc-all	(任意) すべての VDC のライセンス情報が表示されます。
LAN_ADVANCED_SERVICES_PKG	(任意) Advanced Services ライセンス パッケージで使用中のライセンス付き機能のリストが表示されます。
LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG	(任意) Enterprise Services ライセンス パッケージで使用中のライセンス付き機能のリストが表示されます。

デフォルト ローカル VDC のライセンスの使用状況が表示されます。

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザ ロール ネットワーク 管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、ローカル VDC の現在のライセンスの使用状況に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show license usage
Feature                               Ins Lic  Status Expiry Date Comments
                                   Count
-----
LAN_ADVANCED_SERVICES_PKG            No  -   In use                Grace 116D 20H
LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG          No  -   In use                Grace 116D 20H
-----
```

次に、特定のライセンスで使用されている機能のリストを表示する例を示します。

```
switch# show license usage LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG
Application
-----
bgp
ospf
-----
```

次に、すべての VDC の特定のライセンスで使用されている機能のリストを表示する例を示します。

```
switch# show license usage vdc-all LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG
Application
-----
bgp
ospf
bgp@2
ospf@2
-----
```



(注)

コマンド出力で機能名のあとに示される「@2」は、その機能が VDC 2 でイネーブルであることを示します。VDC の名前および ID の情報を表示するには、**show vdc** コマンドを使用します。

show line

COM1 ポートおよびコンソール ポートの設定に関する情報を表示するには、**show line** コマンドを使用します。

```
show line [com1 | console]
```

シンタックスの説明	com1	(任意) COM1 ポートの設定に関する情報のみが表示されます。
	console	(任意) コンソール ポートの設定に関する情報のみが表示されます。

デフォルト COM1 ポートおよびコンソール ポートの設定に関する情報が表示されます。

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、COM1 ポートおよびコンソール ポートの設定に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show line
line Console:
  Speed:          115200 baud
  Databits:       8 bits per byte
  Stopbits:      1 bit(s)
  Parity:         none
  Modem In:      Disable
  Modem Init-String -
                  default : ATE0Q1&D2&C1S0=1\015
Statistics: tx:26197 rx:805   Register Bits:RTS|CTS|DTR|DSR|CD|RI
line Aux:
  Speed:          9600 baud
  Databits:       8 bits per byte
  Stopbits:      1 bit(s)
  Parity:         none
  Modem In:      Enable
  Modem Init-String -
                  default : ATE0Q1&D2&C1S0=1\015
  Hardware Flowcontrol: ON
Statistics: +o Cee+ Register Bits:RTS|CTS|DTR|DSR|CD|RI
```

次に、コンソールポートの設定に関する情報のみを表示する例を示します。

```
switch# show line console
line Console:
  Speed:          115200 baud
  Databits:       8 bits per byte
  Stopbits:       1 bit(s)
  Parity:         none
  Modem In:       Disable
  Modem Init-String -
    default : ATE0Q1&D2&C1S0=1\015
  Statistics: tx:26197 rx:805   Register Bits:RTS|CTS|DTR|DSR|CD|RI
```

関連コマンド

コマンド	説明
line com1	COM1 ポート コンフィギュレーション モードが開始します。
line console	コンソール ポート コンフィギュレーション モードが開始します。

show running-config

実行コンフィギュレーションを表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

show running-config [all]

シンタックスの説明	all (任意) すべてのデフォルト値および設定済み情報が表示されます。
------------------	---

デフォルト	設定された情報のみが表示されます。
--------------	-------------------

コマンドモード	任意のコマンドモード
----------------	------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者 ネットワーク オペレータ vdc オペレータ
----------------------	---

コマンド履歴	リリース 変更内容
	4.0(1) このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドにはライセンスは不要です。
-------------------	---------------------

例	次に、実行コンフィギュレーションに対して行われた変更を表示する例を示します。
----------	--

```
switch# show running-config
```

次に、デフォルト値を含めて、実行コンフィギュレーション全体を表示する例を示します。

```
switch# show running-config all
```

関連コマンド	コマンド 説明
	copy running-config startup-config 実行コンフィギュレーションがスタートアップ コンフィギュレーションにコピーされます。
	show running-config diff 実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異が表示されます。
	show startup-config スタートアップ コンフィギュレーションが表示されます。

show running-config diff

実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示するには、**show running-config diff** コマンドを使用します。

```
show running-config diff
```

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 表 6 に、コマンド出力で使用される表記を示します。

表 6 show running-config diff の表記

表記	説明
***** — line1, line2 — *** line1, line2 ****	差異のある行の範囲を示します。アスタリスク (*) で示される行の範囲はスタートアップ コンフィギュレーションの行であり、ダッシュ (-) で示される範囲は実行コンフィギュレーションの行です。
+ text	その行が、実行コンフィギュレーションには含まれているが、スタートアップ コンフィギュレーションには含まれていないことを示します。
- text	その行が、実行コンフィギュレーションには含まれていないが、スタートアップ コンフィギュレーションには含まれていることを示します。
! text	その行が、両方のコンフィギュレーションに含まれているが、順序が異なることを示します。

このコマンドにはライセンスは不要です。

■ show running-config diff

例 次に、実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示する例を示します。

```
switch# show running-config diff
*** Startup-config
--- Running-config
*****
*** 48,76 ****
--- 48,83 ----
    username foo role network-admin
    username x password 5 ! role network-operator
    username user-op password 5 $1$ykZCz5Y2$npXjKVQhpa4U7EtwMauQG1 role network-o
perator
    telnet server enable
    ssh key rsa 768 force
+ ssh key dsa force
    ip domain-lookup
    ip host 172.28.231.193 172.28.231.193
    kernel core target 0.0.0.0
...

```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションがスタートアップ コンフィギュレーションにコピーされます。
show running-config	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異が表示されます。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションが表示されます。

show startup-config

スタートアップ コンフィギュレーションを表示するには、**show startup-config** コマンドを使用します。

show startup-config

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、スタートアップ コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show startup-config
```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションがスタートアップ コンフィギュレーションにコピーされます。
	show running-config	実行コンフィギュレーションが表示されます。
	show running-config diff	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異が表示されます。

show switchname

デバイスのホスト名を表示するには、**show switchname** コマンドを使用します。

show switchname

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **show hostname** コマンドでも、デバイスのホスト名が表示されます。
このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、デバイスのホスト名を表示する例を示します。

```
switch# show switchname
switch
```

関連コマンド	コマンド	説明
	switchname	デバイスのホスト名が設定されます。
	show hostname	ホスト名が表示されます。

show tech-support

Cisco テクニカルサポートの情報を表示するには、**show tech-support** コマンドを使用します。

```
show tech-support [brief | commands |feature]
```

シンタックスの説明	
brief	(任意) デバイスのステータスに関する情報のみが表示されます。
commands	(任意) show tech-support コマンドで実行されるコマンドの完全なリストが表示されます。
<i>feature</i>	(任意) 特定の機能の名前。機能のリストを確認するには、CLI の状況依存ヘルプ (たとえば、 show tech-support ?) を使用します。

デフォルト すべての機能の情報が表示されます。

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール

- ネットワーク管理者
- vdc 管理者
- ネットワーク オペレータ
- vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **show tech-support** コマンドの出力は、非常に長い出力です。この出力をファイルにリダイレクトすると、効率よく管理できます (たとえば、**show tech-support > bootflash:filename** を使用)。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、テクニカルサポート情報を表示してファイルにリダイレクトする例を示します。

```
switch# show tech-support > bootflash:tsupport_file
```

次に、デバイスに関する簡単なテクニカルサポート情報を表示する例を示します。

```
switch# show tech-support brief
```

次に、特定の機能に関するテクニカルサポート情報を表示する例を示します。

```
switch# show tech-support aaa
```

次に、テクニカルサポート情報を生成するコマンドを表示する例を示します。

```
switch# show tech-support commands
```

show terminal

セッションのターミナル設定に関する情報を表示するには、**show terminal** コマンドを使用します。

show terminal

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、セッションのターミナル設定に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show terminal
TTY: /dev/pts/41 Type: "ansi"
Length: 31 lines, Width: 80 columns
Session Timeout: None
```

関連コマンド	コマンド	説明
	terminal length	セッションのターミナルの表示の長さが設定されます。
	terminal session-timeout	セッションのターミナルの非アクティブセッションのタイムアウトが設定されます。
	terminal type	セッションのターミナルのタイプが設定されます。
	terminal width	セッションのターミナルの表示幅が設定されます。

show version

ソフトウェア バージョンに関する情報を表示するには、**show version** コマンドを使用します。

```
show version [epld filename | fan fan-number epld | image filename | module slot [epld] | xbar
xbar-number epld]
```

シンタックスの説明	
epld filename	(任意) EPLD イメージ ファイルのバージョン情報が表示されます。
fan fan-number epld	(任意) ファンの EPLD のバージョン情報が表示されます。
image filename	(任意) システム イメージ ファイルまたはキックスタート イメージ ファイルのバージョン情報が表示されます。
module slot	(任意) I/O モジュールのイメージおよび BIOS のバージョン情報が表示されます。
epld	(任意) I/O モジュール上の EPLD イメージのバージョン情報が表示されます。
xbar xbar-number epld	(任意) ファブリック モジュールの EPLD のバージョン情報が表示されます。

デフォルト 実行中のキックスタート イメージおよびシステム イメージのソフトウェア バージョン情報が表示されます。

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザ ロール ネットワーク 管理者
vdc 管理者
ネットワーク オペレータ
vdc オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、デバイスで実行中のキックスタート イメージおよびシステム イメージのバージョン情報を表示する例を示します。

```
switch# show version
Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software
TAC support: http://www.cisco.com/tac
Copyright (c) 2002-2008, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained in this software are
owned by other third parties and used and distributed under
license. Certain components of this software are licensed under
the GNU General Public License (GPL) version 2.0 or the GNU
Lesser General Public License (LGPL) Version 2.1. A copy of each
such license is available at
http://www.opensource.org/licenses/gpl-2.0.php and
http://www.opensource.org/licenses/lgpl-2.1.php

Software
  BIOS:          version 3.17.0
  loader:        version N/A
  kickstart:     version 4.0(1a) [gdb]
  system:        version 4.0(1a) [gdb]
  BIOS compile time:      03/23/08
  kickstart image file is: bootflash:/n7000-s1-kickstart.4.0.1a.bin
  kickstart compile time: 5/8/2008 13:00:00 [05/20/2008 07:52:26]
  system image file is:   bootflash:/n7000-s1-dk9.4.0.1a.bin
  system compile time:   5/8/2008 13:00:00 [05/20/2008 08:35:00]

Hardware
  cisco Nexus7000 C7010 (10 Slot) Chassis ("Supervisor module-1X")
  Intel(R) Xeon(R) CPU          with 2063436 kB of memory.
  Processor Board ID JAB10380101

  Device name: switch
  bootflash:   1023120 kB
  slot0:       0 kB (expansion flash)

Kernel uptime is 1 day(s), 3 hour(s), 48 minute(s), 20 second(s)

Last reset at 761445 usecs after Wed May 21 11:46:23 2008

  Reason: Reset Requested by CLI command reload
  System version: 4.0(1.51)
  Service:

plugin
  Core Plugin, Ethernet Plugin

CMP (Module 6) no response

CMP (Module 5) no response
```

次に、イメージ ファイルのバージョン情報を表示する例を示します。

```
switch# show version image bootflash:old_image
image name: old_image
bios:      v3.15.0(03/04/08)
system:    version 4.0(1a)
compiled:  4/3/2008 8:00:00 [04/18/2008 08:26:29]
```

次に、I/O モジュールのバージョン情報を表示する例を示します。

```
switch# show version module 2
ModNo Image Type SW Version SW Interim Version BIOS Version
2      SLC          4.0(1a)    4.0(1a)          1.10.5
```


次に、I/O モジュール上の EPLD イメージのバージョン情報を表示する例を示します。

```
switch# show version module 2 epld
```

EPLD Device	Version
Power Manager	2.9
IO	1.17
Forwarding Engine	1.4

次に、ファブリック モジュール上の EPLD イメージのバージョン情報を表示する例を示します。

```
switch# show version xbar 1 epld
```

EPLD Device	Version
Power Manager	2.4

sleep

プロンプトを表示する前に CLI (コマンドライン インターフェイス) を一時停止させるには、**sleep** コマンドを使用します。

sleep *seconds*

シンタックスの説明	<i>seconds</i>	秒数。範囲は 0 ~ 2147483647 です。
------------------	----------------	---------------------------

デフォルト	なし
--------------	----

コマンド モード	任意のコマンド モード
-----------------	-------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドをコマンド スクリプトで使用すると、スクリプトの実行を遅らせることができます。このコマンドにはライセンスは不要です。
-------------------	--

例	次に、プロンプトを表示する前に CLI を一時停止させる例を示します。
----------	-------------------------------------

```
switch# sleep 5
```

speed (COM1 およびコンソール)

COM1 ポートまたはコンソール ポートの送受信速度を設定するには、**speed** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

speed speed

no speed speed

シンタックスの説明	<i>speed</i>	速度 (bps)。有効な速度は、300、1200、2400、4800、9600、19200、38400、57600、または 115200 です。
------------------	--------------	--

デフォルト	COM1 ポートのデフォルトの速度は 9600 です。 コンソール ポートのデフォルトの速度は 115200 です。
--------------	---

コマンド モード	COM1 ポート コンフィギュレーション コンソール ポート コンフィギュレーション
-----------------	---

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

コンソール ポートおよび COM1 ポートは、コンソール ポート上のセッションからのみ設定できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、COM1 ポートの速度を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# speed 57600
```

次に、コンソール ポートの速度を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# speed 57600
```

次に、COM1 ポートの速度をデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# no speed 57600
```

■ stopbits

次に、コンソールポートの速度をデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no speed 57600
```

関連コマンド

コマンド	説明
show line	COM1ポートおよびコンソールポートの設定に関する情報が表示されます。

stopbits

COM1ポートまたはコンソールポートのストップビットを設定するには、**stopbits** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
stopbits {1 | 2}
no stopbits {1 | 2}
```

シンタックスの説明

1	1 ストップビットが指定されます。
2	2 ストップビットが指定されます。

デフォルト

1 ストップビット

コマンドモード

COM1ポート コンフィギュレーション
コンソールポート コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

コンソールポートおよび COM1ポートは、コンソールポート上のセッションからのみ設定できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例

次に、COM1 ポートのストップ ビット数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# stopbits 2
```

次に、コンソール ポートのストップ ビット数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# stopbits 2
```

次に、COM1 ポートのストップ ビット数をデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# no stopbits 2
```

次に、コンソール ポートのストップ ビット数をデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no stopbits 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show line</code>	COM1 ポートおよびコンソール ポートの設定に関する情報が表示されます。

switchname

デバイスのホスト名を設定するには、**switchname** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchname name

no switchname

シンタックスの説明	<i>name</i>	デバイスの名前。32 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、特殊文字を含めることができます。
デフォルト	スイッチ	
コマンド モード	グローバル	コンフィギュレーション
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	<p>NX-OS ソフトウェアでは、CLI (コマンドライン インターフェイス) のプロンプトおよびデフォルトのコンフィギュレーションファイル名でホスト名を使用します。</p> <p>switchname コマンドは、hostname コマンドと同じ機能を実行します。</p> <p>このコマンドにはライセンスは不要です。</p>	
例	<p>次に、デバイスのホスト名を設定する例を示します。</p> <pre>switch# configure terminal switch(config)# switchname Engineering2 Engineering2(config)#</pre> <p>次に、デバイスのホスト名をデフォルトの設定に戻す例を示します。</p> <pre>Engineering2# configure terminal Engineering2(config)# no switchname switch(config)#</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	hostname	デバイスのホスト名が設定されます。
	show switchname	デバイスのホスト名が表示されます。

tail

ファイルの末尾の行を表示するには、**tail** コマンドを使用します。

```
tail [filesystem://module/][directory/]filename lines]
```

シンタックスの説明	
<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>//module/</i>	(任意) スーパーバイザ モジュールの ID。有効な値は、 sup-active 、 sup-local 、 sup-remote 、または sup-standby です。ID では、大文字と小文字が区別されます。
<i>directory/</i>	(任意) ディレクトリの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	コマンド ファイルの名前。大文字と小文字が区別されます。
<i>lines</i>	(任意) 表示する行数。範囲は 0 ~ 80 です。

デフォルト 10 行

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク 管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、ファイルの末尾の 10 行を表示する例を示します。

```
switch# tail bootflash:startup.cfg
ip arp inspection filter marp vlan 9
ip dhcp snooping vlan 13
ip arp inspection vlan 13
ip dhcp snooping
ip arp inspection validate src-mac dst-mac ip
ip source binding 10.3.2.2 0f00.60b3.2333 vlan 13 interface Ethernet2/46
ip source binding 10.2.2.2 0060.3454.4555 vlan 100 interface Ethernet2/10
logging level dhcp_snoop 6
logging level eth_port_channel 6
```

次に、ファイルの末尾の 20 行を表示する例を示します。

```
switch# tail bootflash:startup.cfg 20
area 99 virtual-link 1.2.3.4
router rip Enterprise
router rip foo
    address-family ipv4 unicast
router bgp 33.33
event manager applet sctest
monitor session 1
monitor session 2
ip dhcp snooping vlan 1
ip arp inspection vlan 1
ip arp inspection filter marp vlan 9
ip dhcp snooping vlan 13
ip arp inspection vlan 13
ip dhcp snooping
ip arp inspection validate src-mac dst-mac ip
ip source binding 10.3.2.2 0f00.60b3.2333 vlan 13 interface Ethernet2/46
ip source binding 10.2.2.2 0060.3454.4555 vlan 100 interface Ethernet2/10
logging level dhcp_snoop 6
logging level eth_port_channel 6
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリが変更されます。
copy	ファイルがコピーされます。
dir	ディレクトリの内容が表示されます。
pwd	現在の作業ディレクトリの名前が表示されます。

terminal length

一時停止の前に、現在のセッションのターミナル画面に表示される出力行数を設定するには、**terminal length** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal length lines

terminal no length

シンタックスの説明	lines	表示する行数。範囲は 0 ~ 511 です。出力の表示中に一時停止しない場合は、0 を使用します。
-----------	-------	---

デフォルト コンソールのデフォルトは 0 です。
仮想ターミナルセッションのデフォルトは 31 です。
no 形式のデフォルトは 24 行です。

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン セッションは、ターミナル長に設定された行数を表示したあと、一時停止します。別の画面で複数行を表示する場合はスペースバーを押し、別の 1 行を表示するときには Enter キーを押します。コマンドプロンプトに戻るには、Ctrl-C を押します。

ターミナル長の設定は、現在のセッションにのみ適用されます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、一時停止の前に、ターミナルに表示されるコマンドの出力行数を設定する例を示します。

```
switch# terminal length 28
```

次に、行数をデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# terminal no length
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show terminal	ターミナルセッションの設定が表示されます。

terminal session-timeout

現在のセッションでのターミナルの無活動タイムアウトを設定するには、**terminal session-timeout** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal session-timeout *minutes*

terminal no session-timeout

シンタックスの説明	<i>minutes</i>	分。範囲は 0 ~ 525600 分 (8760 時間) です。
------------------	----------------	----------------------------------

デフォルト	0 分
--------------	-----

コマンド モード	任意のコマンド モード
-----------------	-------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 0 分の値を設定すると、セッション タイムアウトはディセーブルになります。

ターミナルセッションの無活動タイムアウトの設定は、現在のセッションにのみ適用されます。このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、セッションでのターミナルの無活動タイムアウトを設定する例を示します。

```
switch# terminal session-timeout 10
```

次に、セッションでのターミナルの無活動タイムアウトをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# terminal no session-timeout
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show terminal	ターミナルセッションの設定が表示されます。

terminal type

現在のセッションでのターミナルタイプを設定するには、**terminal type** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal type type

terminal no type

シンタックスの説明	<i>type</i>	ターミナルのタイプ。type ストリングでは大文字と小文字が区別され、有効なタイプである必要があります（たとえば、 vt100 または xterm ）。文字数は 80 字以内です。
------------------	-------------	--

デフォルト	ansi
--------------	-------------

コマンドモード	任意のコマンドモード
----------------	------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	ターミナルタイプの設定は、現在のセッションにのみ適用されます。 このコマンドにはライセンスは不要です。
-------------------	--

例	次に、ターミナルタイプを設定する例を示します。
----------	-------------------------

```
switch# terminal type xterm
```

次に、ターミナルタイプをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# terminal no type
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show terminal	ターミナルセッションの設定が表示されます。

terminal width

セッションの現在の行に対し、ターミナル画面上の文字のカラム数を設定するには、**terminal width** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal width columns

terminal no width

シンタックスの説明	<i>columns</i>	カラム数。範囲は 24 ~ 511 です。
------------------	----------------	-----------------------

デフォルト	80 カラム
--------------	--------

コマンド モード	任意のコマンド モード
-----------------	-------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	ターミナル幅の設定は、現在のセッションにのみ適用されます。 このコマンドにはライセンスは不要です。
-------------------	--

例	次に、ターミナル上に表示されるカラム数を設定する例を示します。
----------	---------------------------------

```
switch# terminal width 70
```

次に、カラム数をデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# terminal no width
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show terminal	ターミナルセッションの設定が表示されます。

traceroute

パケットが IPv4 アドレスへの移動時を通るルートを検出するには、**traceroute** コマンドを使用します。

```
traceroute {dest-ipv4-addr | hostname} [vrf vrf-name] [show-mpls-hops] [source src-ipv4-addr]
```

シンタックスの説明

<i>dest-ipv4-addr</i>	宛先デバイスの IPv4 アドレス。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスの名前。大文字と小文字が区別されます。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意) 使用する VRF が指定されます。大文字と小文字が区別されます。
show-mpls-hops	(任意) MPLS ホップ数が表示されます。
source <i>src-ipv4-addr</i>	(任意) 送信元 IPv4 アドレスが指定されます。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。

デフォルト

デフォルトの VRF が使用されます。
MPLS ホップ数は表示されません。
送信元アドレスの管理 IPv4 アドレスが使用されます。

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

IPv6 アドレス指定を使用してデバイスへのルートを検出するには、**traceroute6** コマンドを使用します。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例

次に、デバイスへのルートを検出する例を示します。

```
switch# traceroute 172.28.255.18 vrf management
traceroute to 172.28.255.18 (172.28.255.18), 30 hops max, 40 byte packets
 1 172.28.230.1 (172.28.230.1) 0.746 ms 0.595 ms 0.479 ms
 2 172.24.114.213 (172.24.114.213) 0.592 ms 0.51 ms 0.486 ms
 3 172.20.147.50 (172.20.147.50) 0.701 ms 0.58 ms 0.486 ms
 4 172.28.255.18 (172.28.255.18) 0.495 ms 0.43 ms 0.482 ms
```

関連コマンド

コマンド	説明
traceroute6	IPv6 アドレス指定を使用することで、デバイスへのルートが検出されます。

traceroute6

パケットが IPv6 アドレスへの移動時を通るルートを検出するには、**traceroute6** コマンドを使用します。

```
traceroute6 {dest-ipv6-addr | hostname} [vrf vrf-name] [source src-ipv6-addr]
```

シンタックスの説明

<i>dest-ipv6-addr</i>	宛先デバイスの IPv6 アドレス。フォーマットは、 <i>A:B::C:D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスの名前。大文字と小文字が区別されます。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意) 使用する VRF が指定されます。大文字と小文字が区別されます。
source <i>src-ipv6-addr</i>	(任意) 送信元 IPv6 アドレスが指定されます。フォーマットは、 <i>A:B::C:D</i> です。

デフォルト

デフォルトの VRF が使用されます。
送信元アドレスの管理 IPv6 アドレスが使用されます。

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

IPv4 アドレス指定を使用してデバイスへのルートを検出するには、**traceroute** コマンドを使用します。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例

次に、デバイスへのルートを検出する例を示します。

```
switch# traceroute6 2001:0DB8::200C:417A vrf management
```

関連コマンド

コマンド	説明
traceroute	IPv4 アドレス指定を使用することで、デバイスへのルートが検出されます。

update license

既存のライセンスを更新するには、**update license** コマンドを使用します。

update license {bootflash: | slot0: | usb0: | usb1:}filename

シンタックスの説明	
bootflash:	内部ブートフラッシュ メモリ内のライセンス ファイルが指定されます。
slot0:	コンパクトフラッシュ メモリや PCMCIA カード内のライセンス ファイルが指定されます。
usb0:	外部 USB メモリ内のライセンス ファイルが指定されます。
usb1:	外部 USB メモリ内のライセンス ファイルが指定されます。
filename	更新するライセンス ファイルの名前

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デフォルトの Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) でのみ使用できます。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、特定のライセンスを更新する例を示します。

```
switch# update license bootflash:Advanced2.lic Advanced1.lic
Updating Advanced1.lic:
SERVER this_host ANY
VENDOR cisco
Advanced1.lic:
FEATURE LAN_ADVANCED_SERVICES cisco 1.000 permanent 30 HOSTID=VDH=4C0AF664 \
SIGN=24B2B68AA676

with bootflash:/Advance2.lic:
SERVER this_host ANY
VENDOR cisco
Advanced2.lic:
FEATURE LAN_ADVANCED_SERVICES cisco 1.000 permanent uncounted HOSTID=VDH=4C0AF664 \
SIGN=CB7872B23700

Do you want to continue? (y/n) y
Updating license ..done
```

where

CLI (コマンドライン インターフェイス) 内の現在のコンテキストを表示するには、**where** コマンドを使用します。

where [detail]

シンタックスの説明	detail (任意) 詳細なコンテキスト情報が表示されます。
------------------	--

デフォルト	コンテキスト情報の概要が表示されます。
--------------	---------------------

コマンド モード	任意のコマンド モード
-----------------	-------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 vdc 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドは、CLI 内の現在の場所と、その場所へどのように到達したかを追跡する場合に役立ちます。
-------------------	--

このコマンドにはライセンスは不要です。

例	次に、コンテキスト情報の概要を表示する例を示します。
----------	----------------------------

```
switch(config-if)# where
?conf; interface Ethernet2/3      admin@switch%default
```

次に、詳細なコンテキスト情報を表示する例を示します。

```
switch(config-if)# where detail
?conf; interface Ethernet2/3      admin@switch%default
mode:                             conf
                                interface Ethernet2/3
username:                          admin
vdc:                                switch
routing-context vrf: default
```


write erase

永続メモリ領域内の設定を消去するには、**write erase** コマンドを使用します。

write erase [boot | debug]

シンタックスの説明	boot	(任意) ブート設定のみが消去されます。
	debug	(任意) デバッグ設定のみが消去されます。

デフォルト 永続メモリ内のすべての設定が消去されます。

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
vdc 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、情報が破損しているときや使用できない場合に、永続メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーションを消去できます。スタートアップ コンフィギュレーションを消去すると、デバイスは初期状態に戻ります。

このコマンドにはライセンスは不要です。

例 次に、スタートアップ コンフィギュレーションを消去する例を示します。

```
switch(config-if)# write erase
Warning: This command will erase the startup-configuration.
Do you wish to proceed anyway? (y/n) [n] y
```

次に、永続メモリ内のデバッグ設定を消去する例を示します。

```
switch(config-if)# write erase debug
```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションがスタートアップ コンフィギュレーションにコピーされます。
	show running-config	実行コンフィギュレーションが表示されます。

